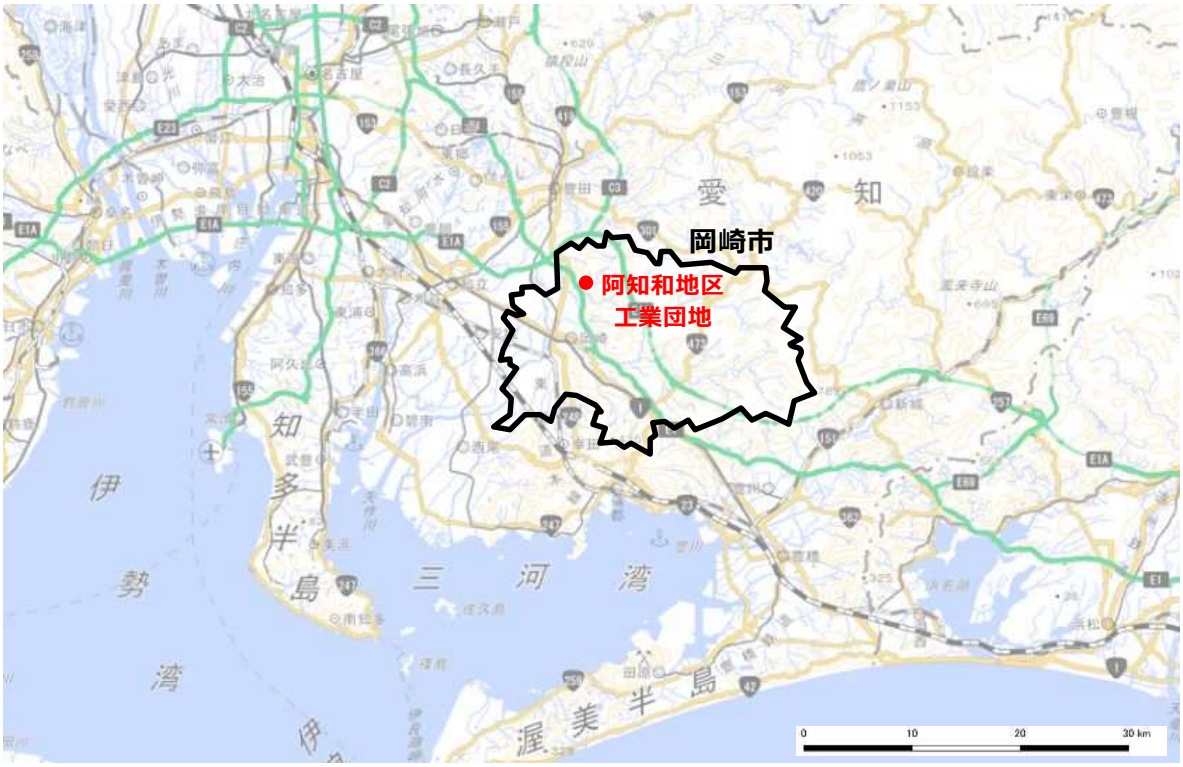
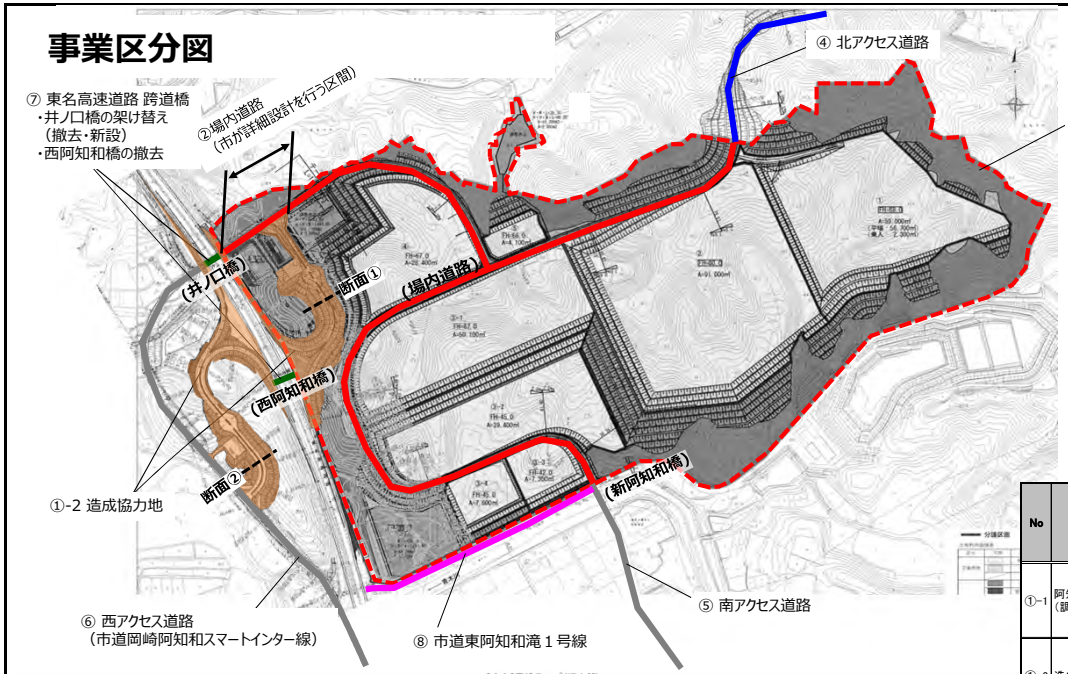
事業位置図

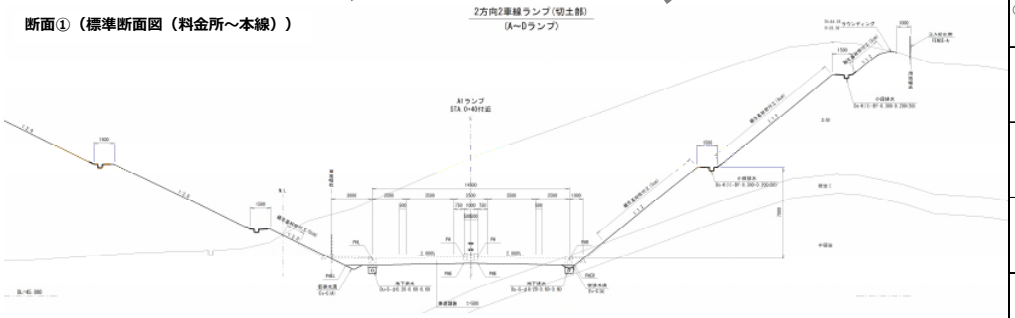

岡崎市
阿知和地区
工業団地
愛知
伊勢湾
三河湾
知多半島
渥美半島
0
10
20
30 km

東名高速道路跨道橋
・井ノ口橋の架け替え
（撤去・新設）
・西阿知和橋の撤去
造成協力地
阿知和地区
工業団地
北アクセス道路
（県）長沢東蔵前線
市道東阿知和滝１号線
（新阿知和橋～東名高速道路）
西アクセス道路
（市道岡崎阿知和
スマートインター線）
南アクセス道路
（都）岡崎環状線
（県）南大須鴨田線
（主）岡崎環状線
東名高速道路
248
339
335
26
0
500
1000
1500
2000 m

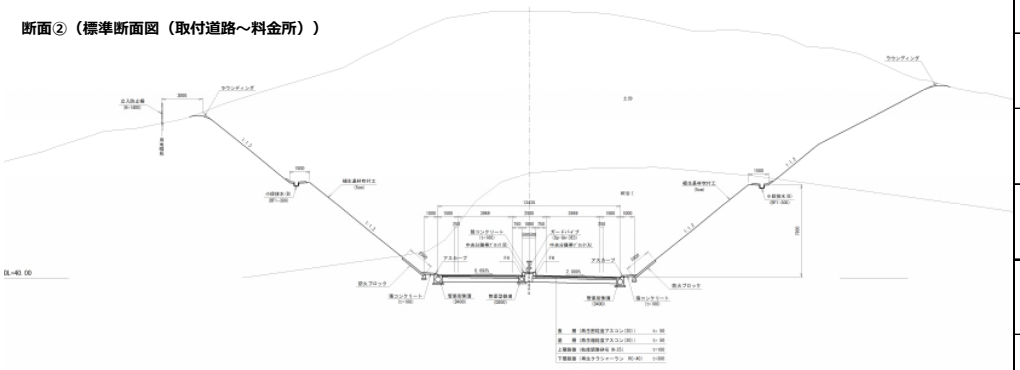
事業区分図



断面①（標準断面図（料金所～本線））

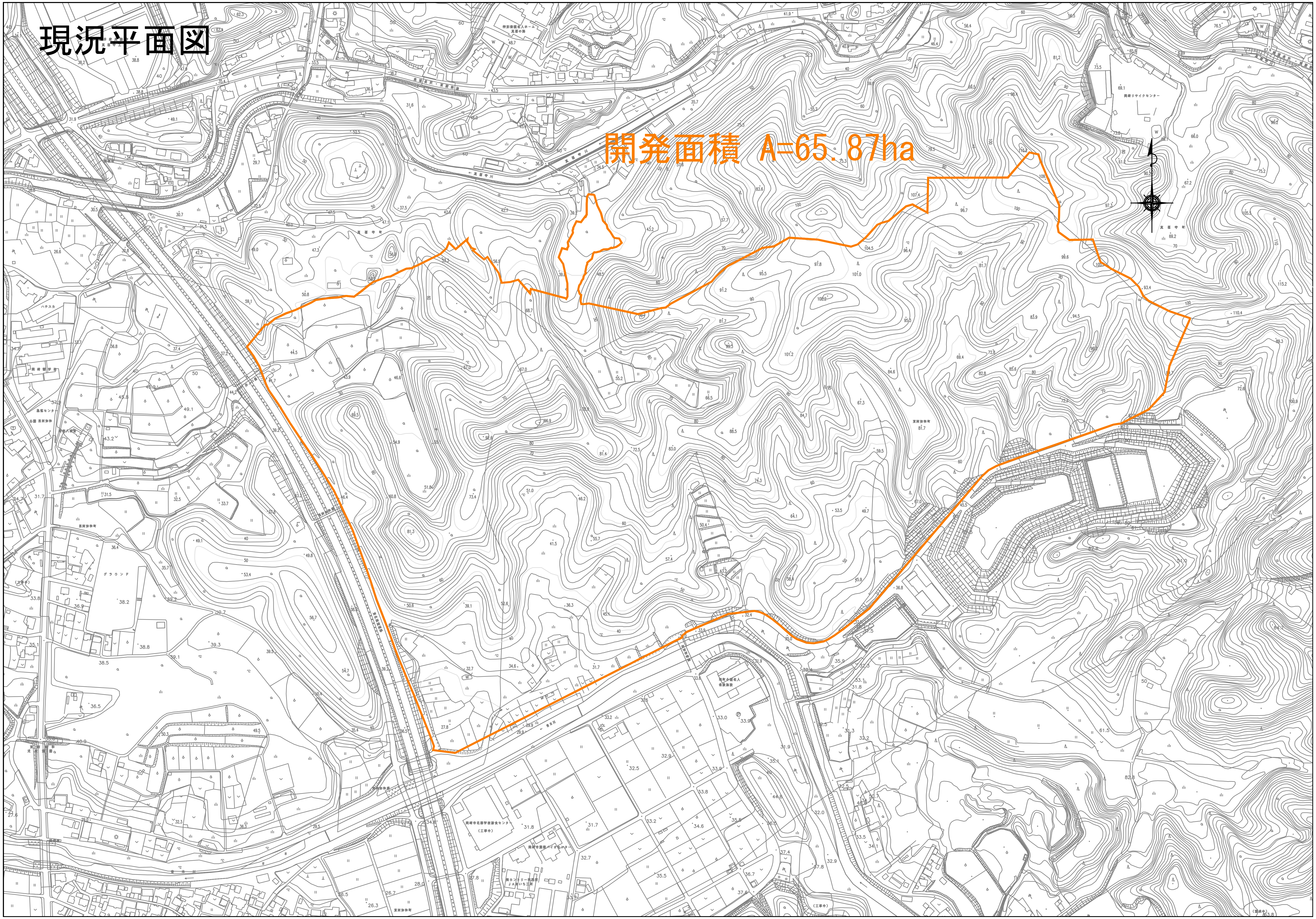


断面②（標準断面図（取付道路～料金所））



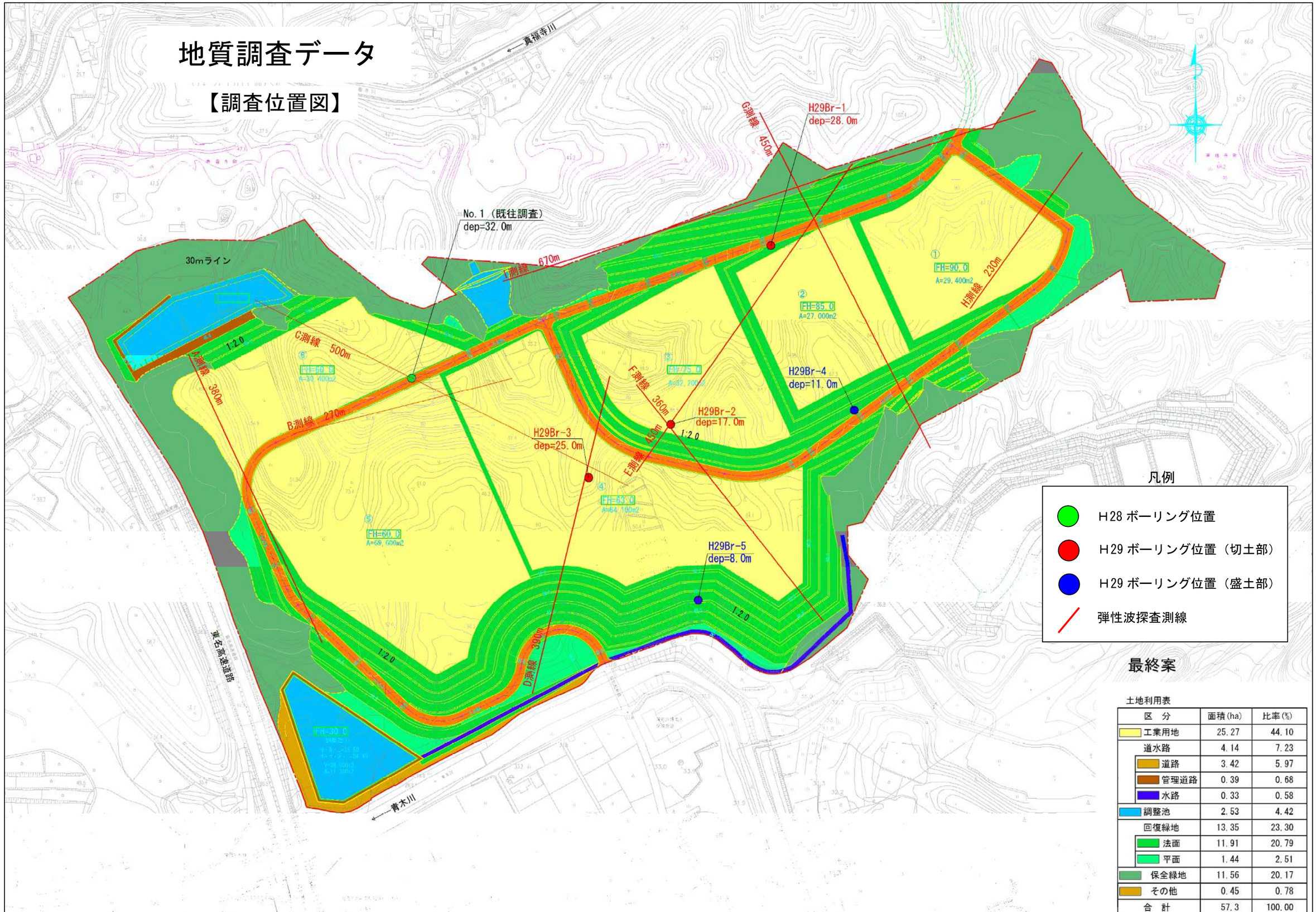
※断面図は「令和元年度（仮称）岡崎阿知和スマートインターチェンジ詳細設計業務」より抜粋
詳細については当該業務成果にて確認すること。

No	項 目	【事業区分】○＝本事業対象 ×＝本事業対象外		備 考	参考資与資料
		設 計（詳細設計）	施 工		
①-1	阿知和地区工業団地（調整池、流末水路等を含む）	○	○	・詳細設計、設計ともに、本事業の対象とする	・H30年度 阿知和地区工業団地 基本設計業務 報告書
①-2	造成協力地	×（市が実施）	○	・詳細設計は、本事業対象外とする。 ・施工は本事業で実施する。	・R元年度（仮称）岡崎阿知和スマートIC詳細設計業務 報告書
②	場内道路	○	○	・詳細設計、設計ともに、本事業の対象とする ※（仮称）岡崎阿知和スマートIC上り線入口交差点～井之口橋交差点までの区間は別途、市が詳細設計を行う	・H30年度 阿知和地区工業団地 基本設計業務 報告書
③	水道施設（ポンプ場、配水塔、調整池、減圧弁等のうち必要なもの及び水道管）	○	○	・詳細設計、施工ともに、本事業の対象とする。	・R元年度 阿知和地区工業団地 配水施設基本計画策定業務 報告書
④	北アクセス道路	×（市が実施）	○	・詳細設計は、本事業対象外とする。（別途、市がR3年度に実施予定） ・施工は、追加契約（本事業に係る契約の変更又は別途随意契約）の予定	・H28年度 阿知和地区工業団地 造成事業に伴う周辺道路 検討業務 報告書
⑤	南アクセス道路	×（市が実施）	×（市が実施）	・詳細設計、施工ともに、本事業対象外とする。 ※ただし、本事業で活用する土砂の受入れを行うこと。	
⑥	西アクセス道路（岡崎阿知和スマートインター線）	×（市が実施）	×（市が実施）	・詳細設計、施工ともに、本事業対象外とする。 ※ただし、本事業で活用する土砂の受入れを行うこと。	・R元年度 市道岡崎阿知和 スマートインター線 詳細設計業務その2 報告書
⑦	東名高速道路 跨道橋 ・井ノ口橋の架け替え（撤去・新設） ・西阿知和橋の撤去	×（市が実施）	○	・詳細設計は、本事業対象外とする。（別途、市が令和2年度に実施予定） ・施工は本事業で実施する。	・R元年度 市道岡崎阿知和 スマートインター線 詳細設計業務 報告書
⑧	市道東阿知和滝１号線（阿知和橋～東名高速道路の区間について、幅員4mの市道として再整備を行う。）	○	○	・詳細設計、設計ともに、本事業の対象とする	―
⑨	自然環境保全対策（ビオトープ）	×（進出予定企業が実施）	×（進出予定企業が実施）	・本事業対象外とする。 ※ただし、進出予定企業の意向を確認のうえ、ビオトープの整備箇所を決め、粗造成を行うこと。（整備規模は約0.7haとする。）また、施工中のビオトープの整備（仮設）を行うこと。	・H27～28年度 岡崎市阿知和地区工業団地造成事業に係る生活環境等影響調査業務 報告書 ・H28～29年度 岡崎市阿知和地区工業団地造成事業に係る生活環境等影響調査補完調査業務 報告書
⑩	自然環境保全対策（植物類及び動物（鳥類を除く）の移植）	×（市が実施）	×（市が実施）	・本事業対象外とする。 ※ただし、施工中に事業者が、重要種を発見した場合等は、移植に協力するなど適正に対処すること。	


現況平面図
開発面積 A=65.87ha

地質調査データ

【調査位置図】



土地利用表

区　分	面積(ha)	比率(%)
工業用地	25.27	44.10
道水路	4.14	7.23
道路	3.42	5.97
管理道路	0.39	0.68
水路	0.33	0.58
調整池	2.53	4.42
回復緑地	13.35	23.30
法面	11.91	20.79
平面	1.44	2.51
保全緑地	11.56	20.17
その他	0.45	0.78
合　計	57.3	100.00

ボーリング柱状図

調査名	阿知和地区工業団地造成事業に係る地質調査業務	ボーリングNo	2
事業・工事名	阿知和地区工業団地造成事業に係る地質調査業務	シートNo	

ボーリング名	H29Br-1	調査位置	岡崎市東阿知和町地内	北緯	34° 59'51.81"
発注機関	岡崎市経済振興部　商工労政課	調査期間	平成 30年 3月 8日 ～ 30年 3月 13日	東経	137° 11'26.07"

孔口標高	109.52m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 10°
総掘進長	28.00m	使用機種	試錐機	DOD	エンジン	EA-11	ポンプ MS314

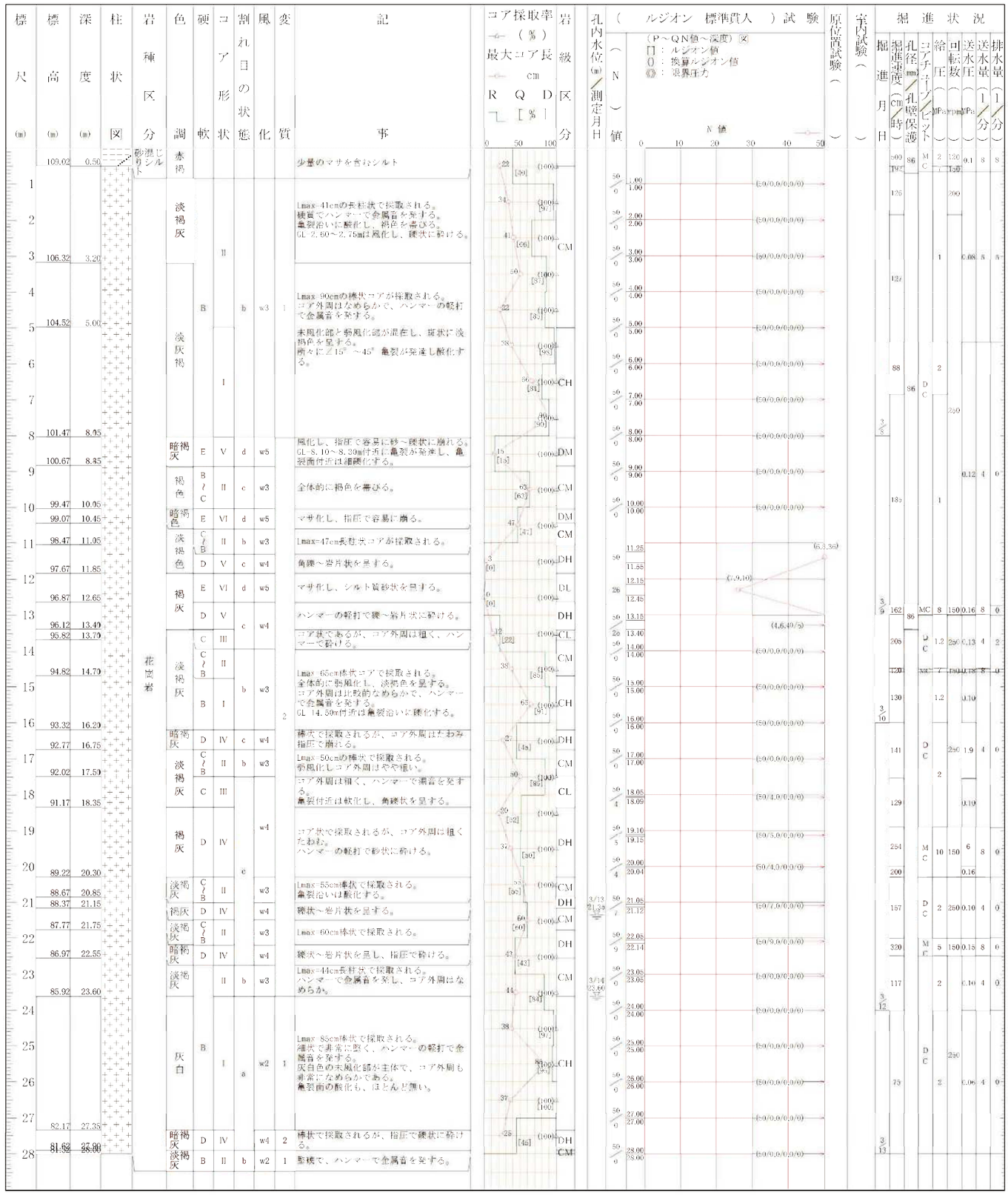
標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
	109.02	0.50		砂混じりシルト	赤褐						少量のマサを含むシルト
1				花崗岩	淡褐灰	B	II	b	w3	1	Lmax=41cmの長柱状で採取される。硬質でハンマーで金属音を発する。亀裂沿いに酸化し、褐色を帯びる。GL-2.60～2.75mは風化し、礫状に砕ける。
2											
3	106.32	3.20									
4					淡灰褐		I				Lmax=90cmの棒状コアが採取される。コア外周はなめらかで、ハンマーの軽打で金属音を発する。未風化部と弱風化部が混在し、斑状に淡褐色を呈する。所々に∠15°～45°亀裂が発達し酸化する。
5	104.52	5.00									
6											
7											
8	101.47	8.05			暗褐灰	E	V	d	w5		風化し、指圧で容易に砂～礫状に崩れる。GL-8.10～8.30m付近に亀裂が発達し、亀裂面付近は細礫化する。
9	100.67	8.85			褐色	B～C	II	c	w3		全体的に褐色を帯びる。
10	99.47	10.05			暗褐色	E	VI	d	w5		マサ化し、指圧で容易に崩る。
	99.07	10.45			淡褐色	C～B	II	b	w3		Lmax=47cm長柱状コアが採取される。
11	98.47	11.05				D	V	c	w4		角礫～岩片状を呈する。
	97.67	11.85			褐灰	E	VI	d	w5		マサ化し、シルト質砂状を呈する。
12	96.87	12.65				D	V	c	w4		ハンマーの軽打で礫～岩片状に砕ける。
13	96.12	13.40									
	95.82	13.70			淡褐灰	C	III				コア状であるが、コア外周は粗く、ハンマーで砕ける。
14	94.82	14.70				C～B	II	b	w3	2	Lmax=65cm棒状コアで採取される。全体的に弱風化し、淡褐色を呈する。コア外周は比較的なめらかで、ハンマーで金属音を発する。GL-14.50m付近は亀裂沿いに礫化する。
15						B	I				
16	93.32	16.20			暗褐灰	D	IV	c	w4		棒状で採取されるが、コア外周はたわみ指圧で崩れる。
17	92.77	16.75			淡褐灰	C～B	II	b	w3		Lmax=50cmの棒状で採取される。弱風化しコア外周はやや粗い。
	92.02	17.50				C	III				コア外周は粗く、ハンマーで濁音を発する。亀裂付近は軟化し、角礫状を呈する。
18	91.17	18.35			褐灰	D	IV	c	w4		コア状で採取されるが、コア外周は粗くたわむ。ハンマーの軽打で砂状に砕ける。
19											
20	89.22	20.30			淡褐灰	C～B	II		w3		Lmax=55cm棒状で採取される。亀裂沿いは酸化する。
	88.67	20.85			褐灰	D	IV		w4		礫状～岩片状を呈する。
21	88.37	21.15			淡褐灰	C～B	II		w3		Lmax=60cm棒状で採取される。
	87.77	21.75			暗褐灰	D	IV		w4		礫状～岩片状を呈し、指圧で砕ける。
22	86.97	22.55			淡褐灰		II	b	w3		Lmax=44cm長柱状で採取される。ハンマーで金属音を発し、コア外周はなめらか。
23	85.92	23.60			灰白	B	I	a	w2	1	Lmax=85cm棒状で採取される。細状で非常に脆く、ハンマーの軽打で金属音を発する。灰白色の未風化部が主体で、コア外周も非常になめらかである。亀裂面の酸化も、ほとんど無い。
24											
25											
26											
27	82.17	27.35			暗褐灰	D	IV		w4	2	棒状で採取されるが、指圧で礫状に砕ける。
	81.62	27.90			淡褐灰	B	II	b	w2	1	堅硬で、ハンマーで金属音を発する。
28	81.32	28.00									

コア採取率（%）　最大コア長 cm　R Q D [%]　岩級区分

孔内水位(m)／測定月日　（ルジオン　標準貫入）試験　（P～QN値～深度）図　□：ルジオン値　()：換算ルジオン値　《》：限界圧力　N値　原位置試験（　）　室内試験（　）

掘進状況

掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
	500	86	MC	2	120	0.1	8	8
	192			1	150			
	126				200			
	127			1		0.08	5	5
	88	86	DC	2				
3/8					250			
	185			1		0.12	4	0
3/9	162	86	MC	8	150	0.16	8	0
	205		DC	1.2	250	0.13	4	2
	120		MC	7	150	0.18	8	0
3/10	130			1.2		0.10		
	141		DC	2	250	1.9	4	0
	129					0.10		
	254		MC	10	150	6	8	0
	200					0.16		
	157		DC	2	250	0.10	4	0
	320		MC	5	150	0.15	8	0
3/12	117			2		0.10	4	0
	75		DC	2	250	0.06	4	0
3/13								



ボーリング柱状図

調査名	阿知和地区工業団地造成事業に係る地質調査業務
事業・工事名	阿知和地区工業団地造成事業に係る地質調査業務

ボーリングNo 2　シートNo

ボーリング名	H29Br－2	調査位置	岡崎市東阿知和町地内			北緯	34° 59’44.87”
発注機関	岡崎市経済振興部　商工労政課		調査期間	平成30年2月23日 ～ 30年3月5日		東経	137° 11’21.68”
孔口標高	89.01m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	鉛直90° 水平0° 10°
総掘進長	17.00m	使用機種	試錐機	DO－D			
			エンジン	EA－11	ポンプ	MS314	

標高 (m)	深度 (m)	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分
88.31	0.70	礫混じり砂	茶褐						花崗岩の風化礫を含む砂が主体。	
84.56	4.45	花崗岩	灰褐	E	VI	d	w5	3	マサ化し、シルト混じりの砂状を呈する。全体に石英や長石が多く残る。軟質で指圧で容易に崩れる。	DL
84.26	4.75	花崗岩		D	IV		w4		砂礫状～岩片状を呈し、指圧で崩れる。	DM
81.06	7.95	花崗岩	灰褐～淡黄灰	B	II～III	c	w3	2	Lmax 26cmの長柱状コア主体。硬質でハンマーで金属音を発する。所々に亀裂が発達し、亀裂沿いは酸化する。GL-7.38～7.53mは風化し、シルト質砂礫状を呈する。	CM
77.21	11.80	花崗岩	淡黄灰～灰褐	B	II	b	w2	1	Lmax=56cm棒状コア主体。全体的に酸化が弱まる。コア外周はなめらかで硬質。ハンマーで金属音を発する。亀裂面は褐色化するが、ほとんど密着する。	CH
76.91	12.10	花崗岩	茶褐	D	V	d	w4	2	亀裂沿いに風化し、角礫～岩片状を呈する。	CL
75.61	13.40	花崗岩	淡黄灰	B	II	c	w3	2	Lmax=36cm長柱状コアで採取される。ハンマーで金属音を発する。GL-12.45～12.60mは砂礫状～片状を呈する。	CM
75.21	13.80	花崗岩	灰褐	C	II	c	w4	2	亀裂付近は軟化し、コア外周は粗い。	CL
74.56	14.45	花崗岩	灰褐	B	II	c	w3	2	Lmax=23cm長柱状コアで採取。	CM
73.71	15.30	花崗岩	褐灰	D	II	c	w4	2	風化し、全体的に酸化する。コア外周は粗く、ハンマーで濁音を発する。亀裂沿いは、軟化しハンマーで砕ける。	DH
72.01	17.00	花崗岩	淡黄灰	B	II	b	w3	2	Lmax=40cm長柱状コアで採取される。ハンマーでやや濁音を発する。GL 16.32～17.00mに鉛直亀裂発達。微細亀裂沿いに酸化し、岩片は中硬質。	CM

コア採取率（%）・最大コア長 cm・RQD [%]

深度付近 (m)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD [%]
0～0.70			[0] [0]
1	(100)		
2～3	(100)	25	[25]
3～4	(100)		
4～5	(100)	25	[56]
5～6	(100)	26	[83]
6～7	(100)	26	[51]
7～8	(100)	56	[86]
8～9	(100)	54	[96]
9～10	(100)	50	[75]
10～11	(100)	36	[60]
11～12	(100)	36	[71]
12～13	(100)	22	[56]
13～14	(100)	23	[66]
14～15	(100)	40	[70]
15～16	(100)		
16～17	(100)	40	[67]

標準貫入試験（N値）

深度 (m)	N値	打撃回数
1.15～1.45	7	(2,2,3)
2.15～2.45	9	(2,3,4)
3.15～3.45	11	(3,4,4)
4.15～4.45	14	(4,4,6)
5.00～5.00	50/0	(50/0,0/0,0/0)
6.00～6.00	50/0	(50/0,0/0,0/0)
7.00～7.00	50/0	(50/0,0/0,0/0)
8.00～8.00	50/0	(50/0,0/0,0/0)
9.00～9.00	50/0	(50/0,0/0,0/0)
10.00～10.00	50/0	(50/0,0/0,0/0)
11.00～11.00	50/0	(50/0,0/0,0/0)
12.05～12.08	50/3	(50/3,0/0,0/0)
13.00～13.00	50/0	(50/0,0/0,0/0)
14.00～14.00	50/0	(50/0,0/0,0/0)
15.10～15.20	50/10	(50,0/0,0/0)
16.00～16.00	50/0	(50/0,0/0,0/0)
17.00～17.00	50/0	(50/0,0/0,0/0)

掘進状況

深度 (m)	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (l/分)	排水量 (l/分)
0～0.70		515			1				
0.70～3.70		756	86	MC	2	150	0.08	8	8
3.70～4.45		219			3				
4.45～4.75		55						4	4
4.75～6.30		117			0.5		0.05		
6.30～7.00	2/23	131			1.5		0		
7.00～8.00		128			1.2				
8.00～9.00		102			1.3				
9.00～10.50		135			2.5		0.06		
10.50～12.10		177		DC	0.6	250		5	0
12.10～15.10	3/3	188			1		0.10		
15.10～17.00	3/5	128					0.09		

ボーリング柱状図

調　査　名　阿知和地区工業団地造成事業に係る地質調査業務

事業・工事名　阿知和地区工業団地造成事業に係る地質調査業務

ボーリングNo 0 2

シートNo

ボーリング名	H29Br-3	調査位置	岡崎市東阿知和町地内	北緯	34° 59’42.60”
発注機関	岡崎市経済振興部　商工労政課	調査期間	平成30年2月14日 ～ 30年2月15日	東経	137° 11’17.74”
孔口標高	74.98m	角度	上180° 下0° 90° 0°	方向	北0° 東90° 南180° 西270°	地盤勾配	鉛直90° 水平0°	使用機種	試錐機	DO-D
総掘進長	25.00m								エンジン	EA-11	ポンプ	MS314

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化変質	記事	岩級区分
1	74.43	0.55		シルト混じり砂	黄灰					有機質で植物根が混入する。	
2				花崗岩	黄褐灰	F	VII		w5	風化によりマサ化した花崗岩。 全体に細粒分を含み、シルト質砂状を呈する。 非常に軟質で、指圧で容易に崩れる。所々酸化し褐色を帯びる。	DL
3											
4											
5											
6	67.98	7.00			褐灰		VI	d		風化により、礫混じりの粗砂状を呈する。 全体に2mm程度の石英や長石が残存する。 比較的締まりは良いが指圧で崩れる。 全体的に褐色化する。	DM
7											
8											
9	64.98	10.00			黄褐灰	D	IV		w4	3	礫状～棒状コアで採取される。 コア肌は粗く、コアは全体的にたわむ。 比較的固いが指圧砕可能。	DH
10											
11											
12											
13	61.08	13.90									
14	60.68	14.30				E	V			部分的に軟化し、礫化する。	DM
15					黄褐灰～灰白	D	IV	c	w4	亀裂が発達し、角礫～片状を呈する。 岩片は固く、かろうじて指圧で砕ける。 GL-15.60m～19.60m区間に縦亀裂が発達し、亀裂沿いは軟化する。 亀裂面付近は白色粘土を伴う。	DH
16											
17											
18											
19											
20	54.33	20.65									
21	53.48	21.50			褐灰	C	III		w3	2	比較的硬質であるがハンマーで濁音を発する。	CL
22	52.28	22.70				D	IV		w4	3	GL-21.65mや22.60m付近に∠60°亀裂が発達し、亀裂付近は角礫状となる。	DH
23	51.38	23.60			淡～褐灰	C	III		w3	2	軟質な棒状コアを主体とする。GL-23.3m付近に亀裂が発達し、軟質な粘土を伴う。	CL
24	49.98	25.00			灰褐	B	II～III	b	w3	2	GL-23.60m以深は、堅硬な棒状コアを主体とする。ハンマーで反発する。	CM
25												

コア採取率（%）　最大コア長 cm　RQD [%]

孔内水位（m）／測定月日：2/19 7.05；2/20 10.65

（ルジオン 標準貫入）試験　（P～QN値～深度）図　□：ルジオン値　()：換算ルジオン値　《》：限界圧力　N値

深度 (m)	N値	ルジオン値 / 換算ルジオン値 / 限界圧力
1.15	8	(2,3,3)
1.45		
2.15	10	(3,3,4)
2.45		
3.15	12	(3,4,5)
3.45		
4.15	13	(4,4,5)
4.45		
5.15	17	(5,6,7)
5.45		
6.15	26	(7,9,10)
6.45		
7.15	39	(10,14,15)
7.45		
8.15	38	(9,12,17)
8.45		
9.15	47	(14,15,21)
9.45		
10.15	50	(12,18,20)
10.45		
11.15	50	(12,20,18)
11.45		
12.15	50/16	(25,25/6)
12.31		
13.05	50/17	(27,23/7)
13.22		
14.10	42	(10,13,19)
14.40		
15.10	50/21	(16,21,13/4)
15.34		
16.10	50/21	(17,28,5/1)
16.31		
17.10	50/20	(20,30)
17.30		
18.10	50/16	(23,27/6)
18.26		
19.10	50/23	(18,21,11/3)
19.33		
20.15	50/18	(21,29/8)
20.33		
21.10	50/10	(50)
21.20		
22.10	50/13	(42,8/3)
22.23		
23.00	50/0	(50/0)
23.00		
24.00	50/0	(50/0)
24.00		
25.00	50/0	(50/0)
25.00		

原位置試験（　）

室内試験（　）

掘進状況

掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (1/分)	排水量 (1/分)
2/17	720	86	MC	0.5	150	0.10	4	4
	400							
	600							
	546							
	500							
	667							
	500							
	154		DC		250			
2/19	300	86		1	150			
	546			1.6	151			
	353			2	152	0.09		
	334			3	153			
	400				154			
	393	86	MC	1.5	200		8	8
	300				201	0.12		
2/20	147			1.6	202			
	400			1		0.14		
	261			6	200	0.15		
	150			10		0.20		
	134							
	194			0.08	0.15		4	4
	316			0.9				
	273					0.16		
	134		DC	1.5	200		5	5
	328							
	78							
	96			1		0.18		
	112							

ボーリング柱状図

調　査　名　阿知和地区工業団地造成事業に係る地質調査業務

事業・工事名　阿知和地区工業団地造成事業に係る地質調査業務

ボーリングNo 4

シートNo

ボーリング名	H29Br-4	調査位置	岡崎市東阿知和町地内	北緯	34° 59’44.82”
発注機関	岡崎市経済振興部　商工労政課	調査期間	平成 30年 3月 13日 ～ 30年 3月 15日	東経	137° 11’29.55”
孔口標高	62.38m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総掘進長	11.00m	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 10°	使用機種	試錐機 KR30 / エンジン YANMAR NFAD6 / ポンプ SP570

標高 (m)	深度 (m)	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分
61.83	0.55	シルト混じり砂	茶褐						細～中砂主体で、シルト分が混じる。	
58.38	4.00	シルト質砂	灰						中砂主体で、マサ土を全体に含む。GL-1.00m付近より高含水で非常に緩い。	
57.08	5.30	有機質砂	黒褐						細～中砂主体。全体に有機質シルトを含む。	
56.38	6.00	花崗岩	黄灰	E	VI	d	w5	3	マサ化し、中砂状を呈する。	DL
55.48	6.90	花崗岩	暗緑灰	D	V	c	w4	2	礫状～短柱状を呈するが、指圧で砂～礫状に崩れる。	DH
55.08	7.30	花崗岩	淡黄灰	B	III	b	w3	1	Lmax=37cmの長柱状で採取される。硬質でハンマーで金属音を発する。∠10°～60°亀裂が発達し、亀裂付近は酸化する。	CM
53.28	9.10	花崗岩	淡黄灰	B	II	b	w3	1		CH
52.78	9.60	花崗岩	淡黄灰	B	III	b	w3	1		CM
51.38	11.00	花崗岩	灰白	B	I	b	w2	1	Lmax=60cmの棒状で採取。コア外周はなめらかで、緻密である。亀裂は密着し、亀裂面の酸化はほとんど無い。	CH

コア採取率（%）：全区間 (100)
RQD：0 [0]、12 [12]、32 [83]、37 [93]、40 [76]、60 [88]

孔内水位：3/15 1.05

標準貫入試験（P～QN値～深度）
[ ]：ルジオン値　( )：換算ルジオン値　《 》：限界圧力

深度 (m)	N値	打撃回数
1.00～1.70	1/70	(1/70)
2.16～2.60	2/45	(15,1/30)
3.15～3.60	3/40	(15,1,1/20)
4.15～4.75	1/60	(1/60)
5.15～5.45	10	(1,4,5)
6.15～6.40	50/25	(16,18,16/5)
7.00～7.00	50/0	(50/0,0/0)
8.00～8.00	50/0	(50/0,0,0/0,0)
9.00～9.00	50/0	(50/0,0,0/0,0)
10.00～10.00	50/0	(50/0,0/0)
11.00～11.00	50/0	(50/0,0/0)

掘進状況

月日	掘進速度 (cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (l/分)	排水量 (l/分)
3/14	40			0.5				
	248	66／ケーシング	SC	1.0	150	0.08	5	4
	480		MC	1.5	100			
3/15	208		DC	2.5	150	0.10	5	5

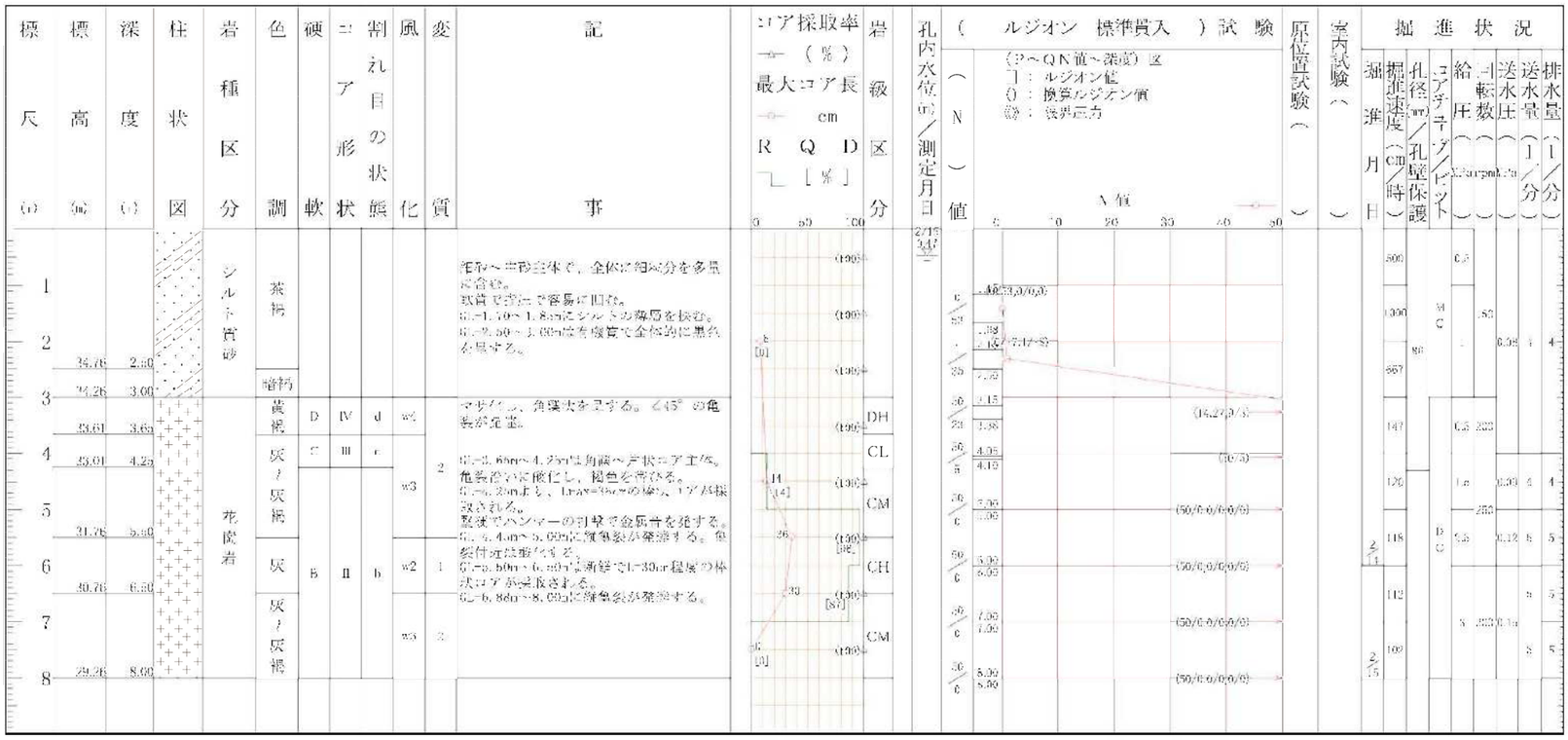
ボーリング柱状図

調　査　名	阿知和地区工業団地造成事業に係る地質調査業務
事業・工事名	阿知和地区工業団地造成事業に係る地質調査業務

ボーリングNo 0 2

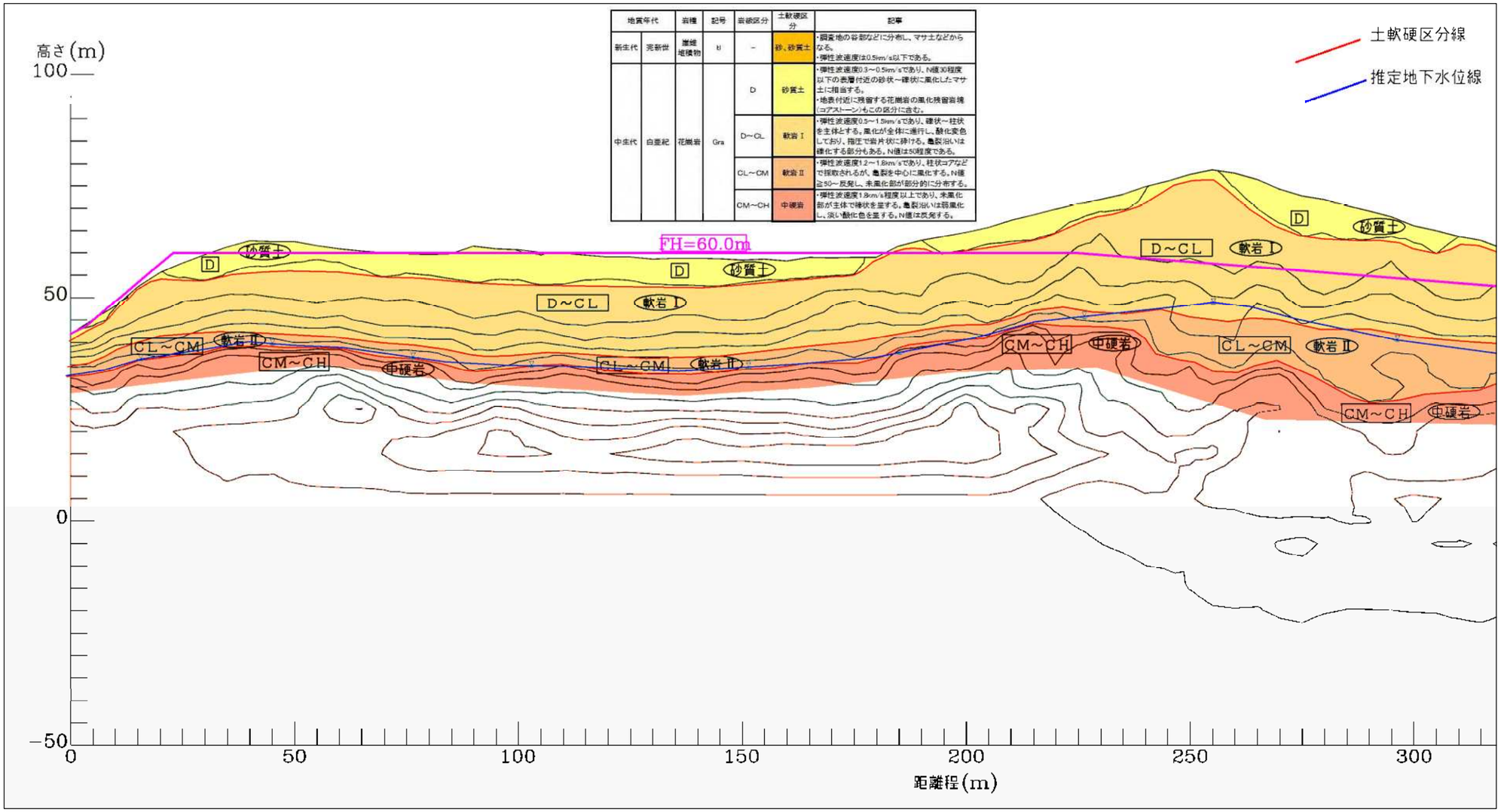
シートNo

ボーリング名	H29Br 5	調査位置	岡崎市東阿知和町地内	北緯	34° 59’38.39”
発注機関	岡崎市経済振興部 商工労政課	調査期間	平成 30年 2月 14日 ～ 30年 2月 15日	東経	137° 11’22.87”
孔口標高	37.26m	角度	上 180° 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 90° 東 180° 南
総掘進長	8.00m	地盤勾配	鉛直 90° 0° 水平 0°	使用機種	試錐機 DOD / エンジン EA-11 / ポンプ MS314

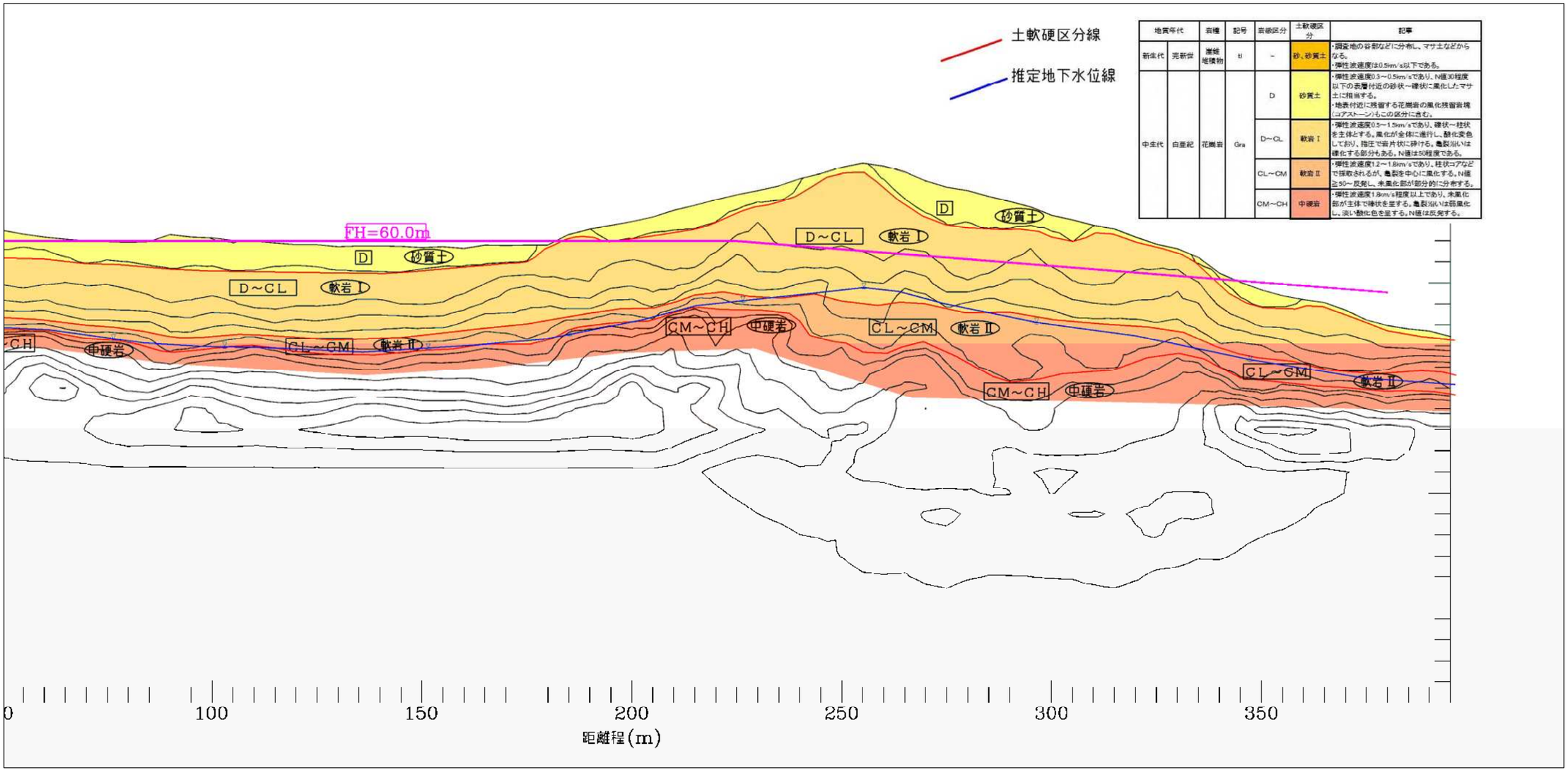


弾性波探査に基づく想定土軟硬断面図

土軟硬断面図（A測線-1）

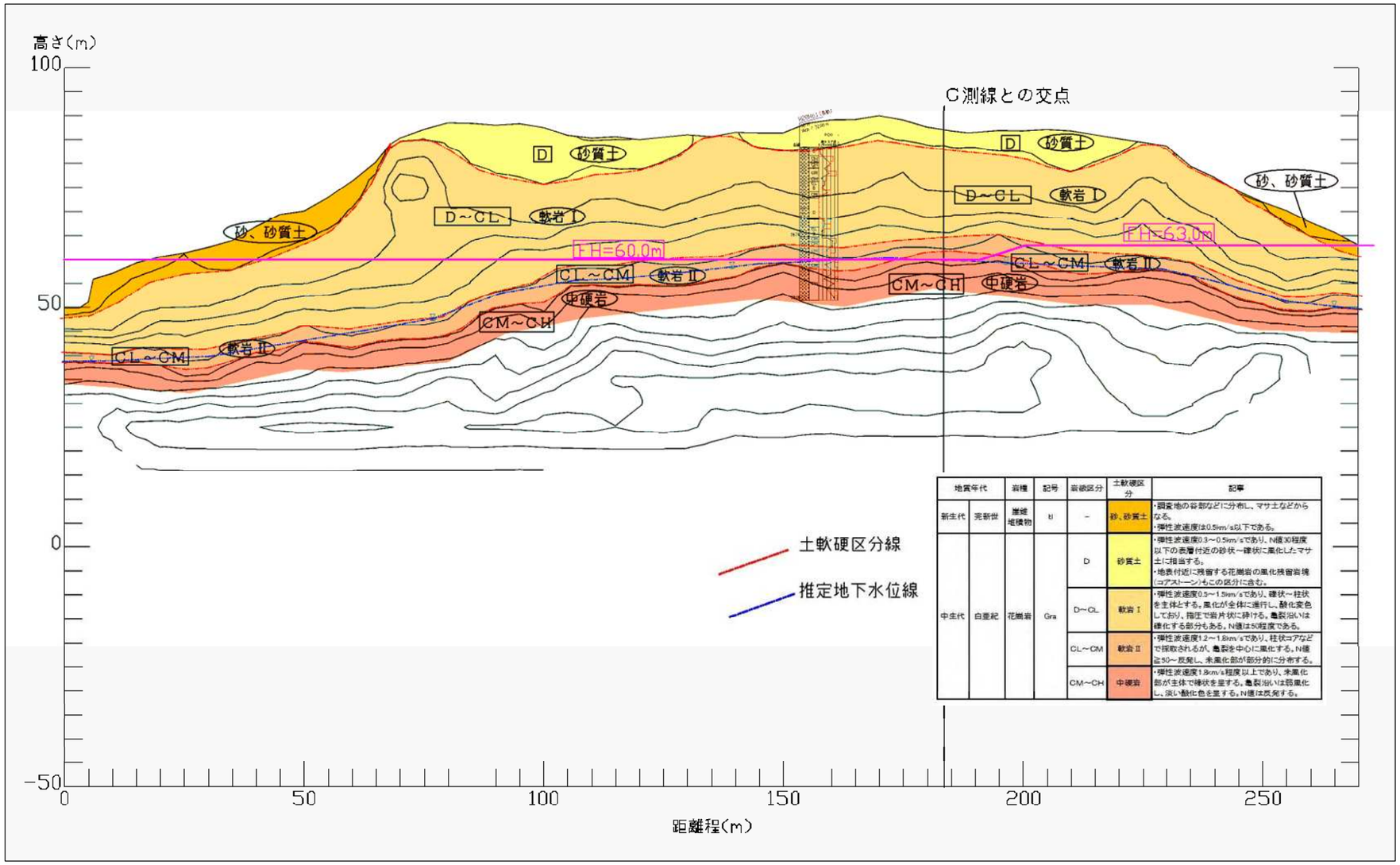


土軟硬断面図（A測線-2）

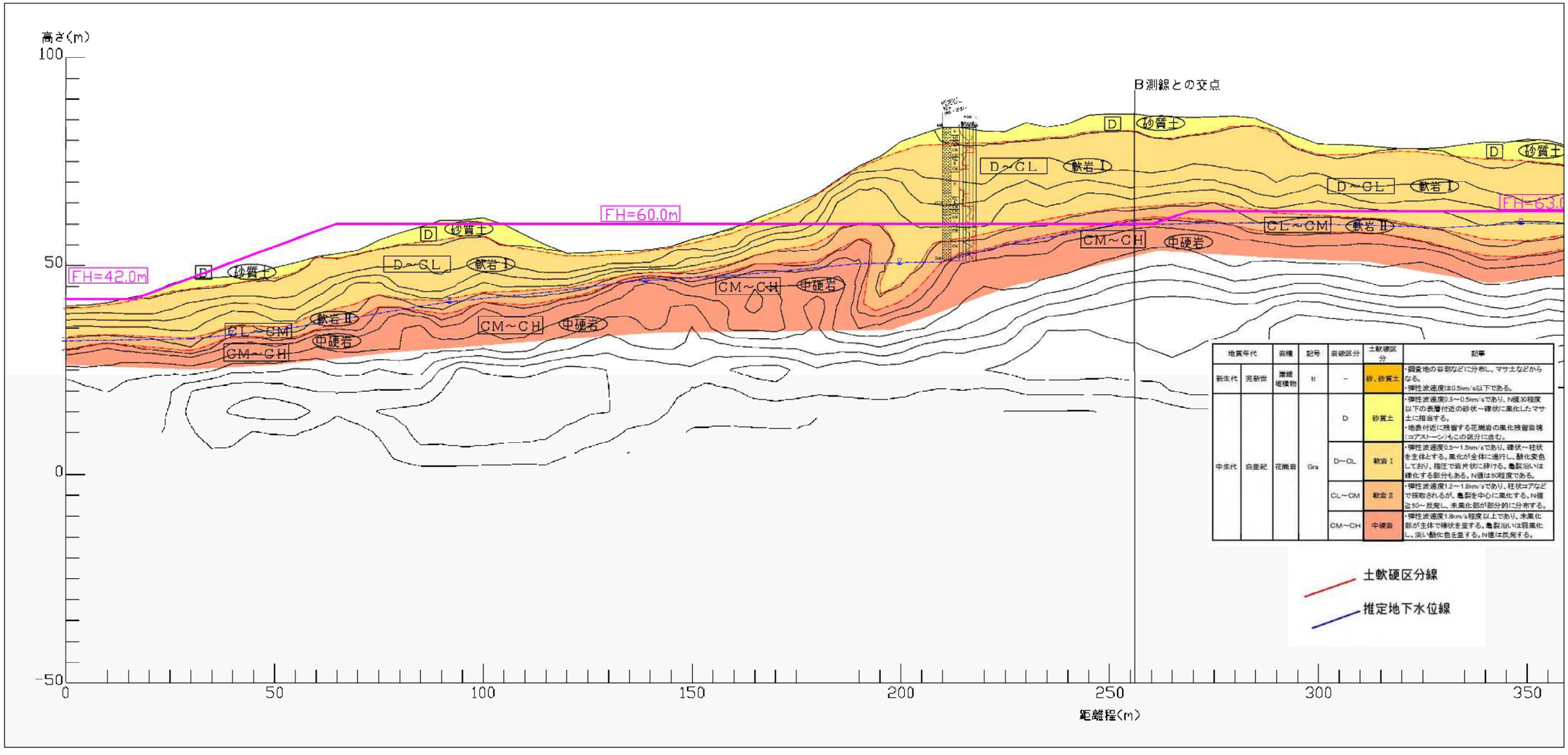


地質年代		岩種	記号	岩級区分	土軟硬区分	記事
新生代	完新世	崖錐堆積物	Ⅱ	－	砂、砂質土	・調査地の谷部などに分布し、マサ土などからなる。 ・弾性波速度は0.5km/s以下である。
中生代	白亜紀	花崗岩	Gra	D	砂質土	・弾性波速度0.3～0.5km/sであり、N値30程度以下の表層付近の砂状～礫状に風化したマサ土に相当する。 ・地表付近に残留する花崗岩の風化残留岩塊（コアストーン）もこの区分に含む。
				D～CL	軟岩Ⅰ	・弾性波速度0.5～1.5km/sであり、礫状～柱状を主体とする。風化が全体に進行し、酸化変色しており、指圧で岩片状に砕ける。亀裂沿いは礫化する部分もある。N値は50程度である。
				CL～CM	軟岩Ⅱ	・弾性波速度1.2～1.8km/sであり、柱状コアなどで採取されるが、亀裂を中心に風化する。N値≧50～反発し、未風化部が部分的に分布する。
				CM～CH	中硬岩	・弾性波速度1.8km/s程度以上であり、未風化部が主体で礫状を呈する。亀裂沿いは弱風化し、淡い酸化色を呈する。N値は反発する。

土軟硬断面図（B測線）

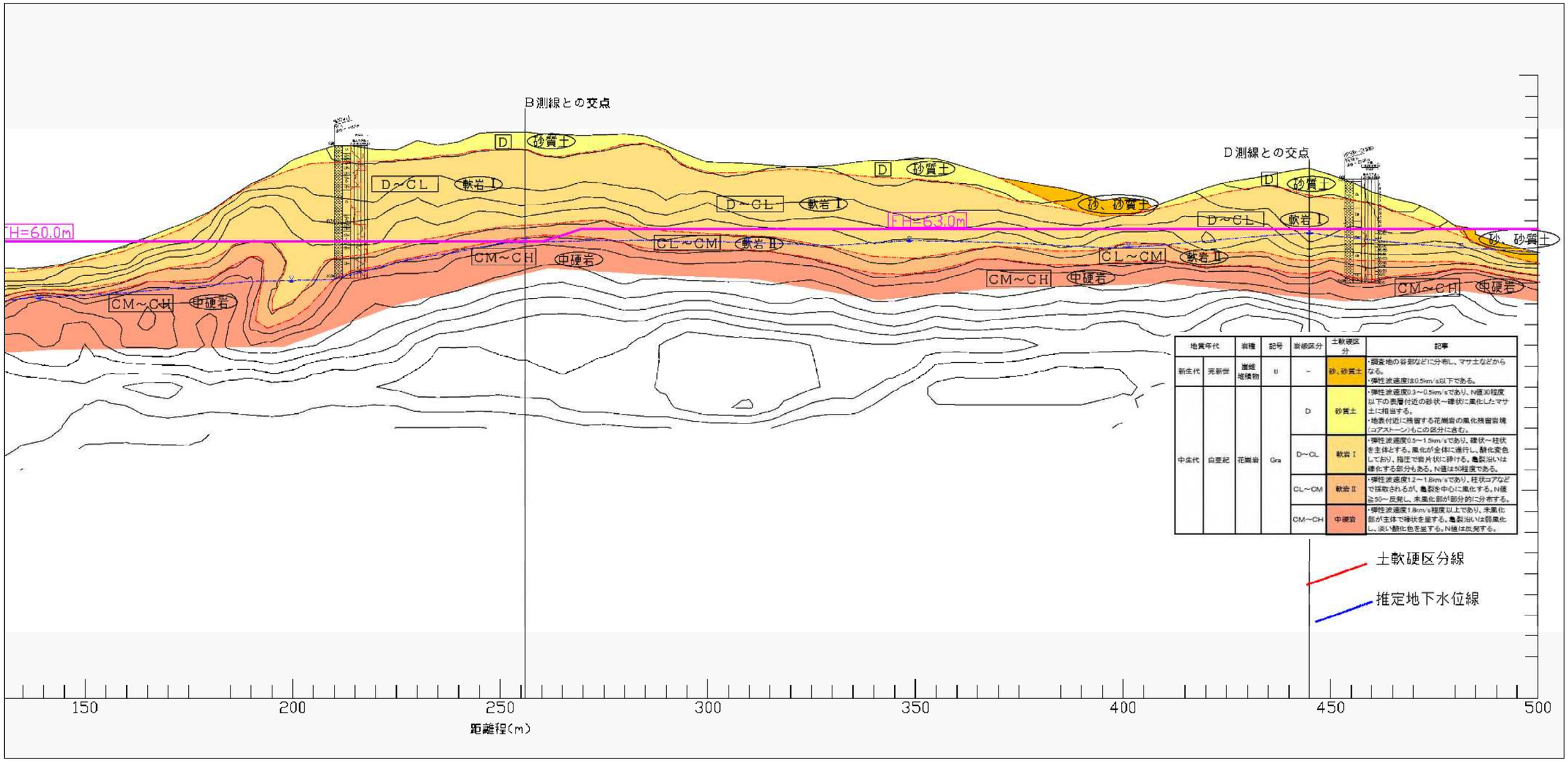

高さ(m)
100
50
0
-50
0
50
100
150
200
250
距離程(m)
C測線との交点
D
砂質土
砂、砂質土
D~CL
軟岩Ⅰ
CL~CM
軟岩Ⅱ
CM~CH
中硬岩
FH=60.0m
FH=63.0m
土軟硬区分線
推定地下水位線
地質年代
岩種
記号
岩級区分
土軟硬区分
記事
新生代
完新世
崖錐堆積物
Dl
-
砂、砂質土
・調査地の谷部などに分布し、マサ土などからなる。
・弾性波速度は0.5km/s以下である。
中生代
白亜紀
花崗岩
Gra
D
砂質土
・弾性波速度0.3～0.5km/sであり、N値30程度以下の表層付近の砂状～礫状に風化したマサ土に相当する。
・地表付近に残留する花崗岩の風化残留岩塊（コアストーン）もこの区分に含む。
D~CL
軟岩Ⅰ
・弾性波速度0.5～1.5km/sであり、礫状～柱状を主体とする。風化が全体に進行し、酸化変色しており、指圧で岩片状に砕ける。亀裂沿いは硬化する部分もある。N値は50程度である。
CL~CM
軟岩Ⅱ
・弾性波速度1.2～1.8km/sであり、柱状コアなどで採取されるが、亀裂を中心に風化する。N値は50～反発し、未風化部が部分的に分布する。
CM~CH
中硬岩
・弾性波速度1.8km/s程度以上であり、未風化部が主体で硬状を呈する。亀裂沿いは弱風化し、淡い酸化色を呈する。N値は反発する。

土軟硬断面図（C測線-1）

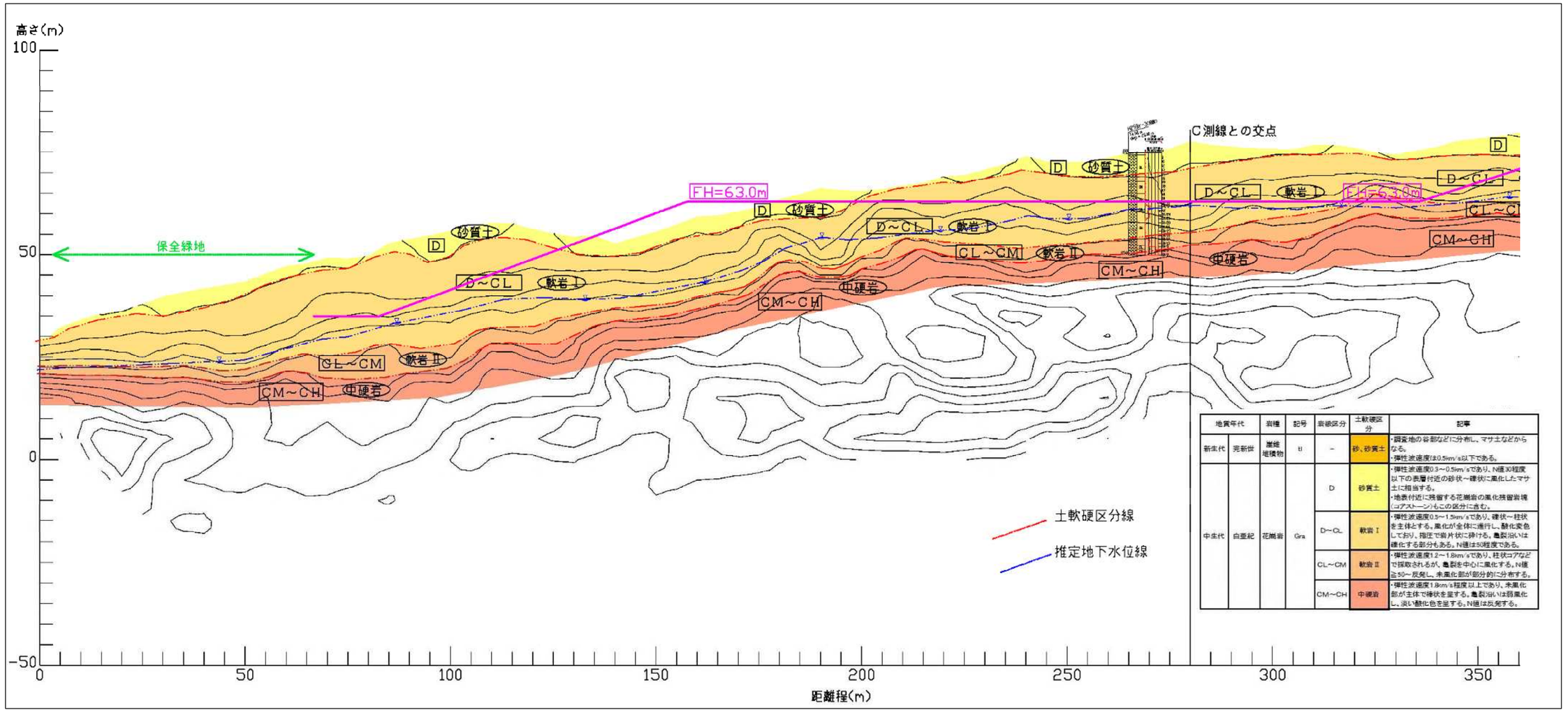


地質年代		岩種	記号	岩級区分	土軟硬区分	記事
新生代	完新世	崖錐堆積物	B	-	砂、砂質土	・調査地の谷部などに分布し、マサ土などからなる。 ・弾性波速度は0.5km/s以下である。
中生代	白亜紀	花崗岩	Gra	D	砂質土	・弾性波速度0.3～0.5km/sであり、N値30程度以下の表層付近の砂状～礫状に風化したマサ土に相当する。 ・地表付近に残留する花崗岩の風化残留岩塊（コアストーン）もこの区分に含む。
				D~CL	軟岩Ⅰ	・弾性波速度0.5～1.5km/sであり、礫状～柱状を主体とする。風化が全体に進行し、酸化変色しており、指圧で岩片状に砕ける。亀裂沿いは礫化する部分もある。N値は50程度である。
				CL~CM	軟岩Ⅱ	・弾性波速度1.2～1.8km/sであり、柱状コアなどで採取されるが、亀裂を中心に風化する。N値≧50～反発し、未風化部が部分的に分布する。
				CM~CH	中硬岩	・弾性波速度1.8km/s程度以上であり、未風化部が主体で棒状を呈する。亀裂沿いは弱風化し、淡い酸化色を呈する。N値は反発する。

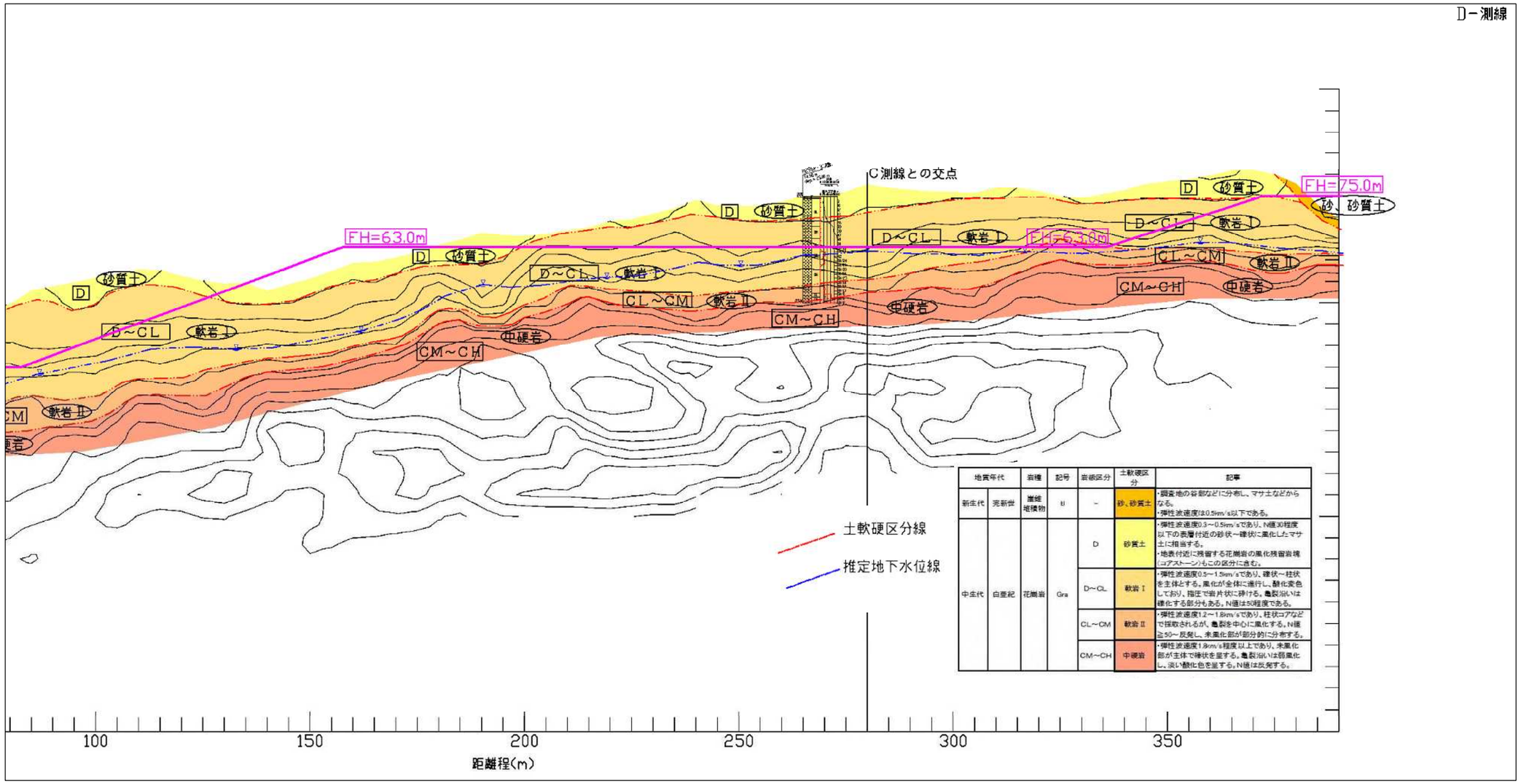
土軟硬断面図（C測線-2）


B測線との交点
D測線との交点
D
砂質土
D～CL
軟岩Ⅰ
CL～CM
軟岩Ⅱ
CM～CH
中硬岩
砂、砂質土
H=60.0m
H=63.0m
地質年代
岩種
記号
岩級区分
土軟硬区分
記事
新生代
完新世
崖錐堆積物
B
－
砂、砂質土
・調査地の谷部などに分布し、マサ土などからなる。
・弾性波速度は0.5km/s以下である。
中生代
白亜紀
花崗岩
Gra
D
砂質土
・弾性波速度0.3～0.5km/sであり、N値30程度以下の表層付近の砂状～礫状に風化したマサ土に相当する。
・地表付近に残留する花崗岩の風化残留岩塊（コアストーン）もこの区分に含む。
D～CL
軟岩Ⅰ
・弾性波速度0.5～1.5km/sであり、礫状～柱状を主体とする。風化が全体に進行し、酸化変色しており、指圧で岩片状に砕ける。亀裂沿いは硬化する部分もある。N値は50程度である。
CL～CM
軟岩Ⅱ
・弾性波速度1.2～1.8km/sであり、柱状コアなどで採取されるが、亀裂を中心に風化する。N値≧50～反発し、未風化部が部分的に分布する。
CM～CH
中硬岩
・弾性波速度1.8km/s程度以上であり、未風化部が主体で棒状を呈する。亀裂沿いは弱風化し、淡い酸化色を呈する。N値は反発する。
土軟硬区分線
推定地下水位線
150
200
250
300
350
400
450
500
距離程(m)

土軟硬断面図（D測線-1）

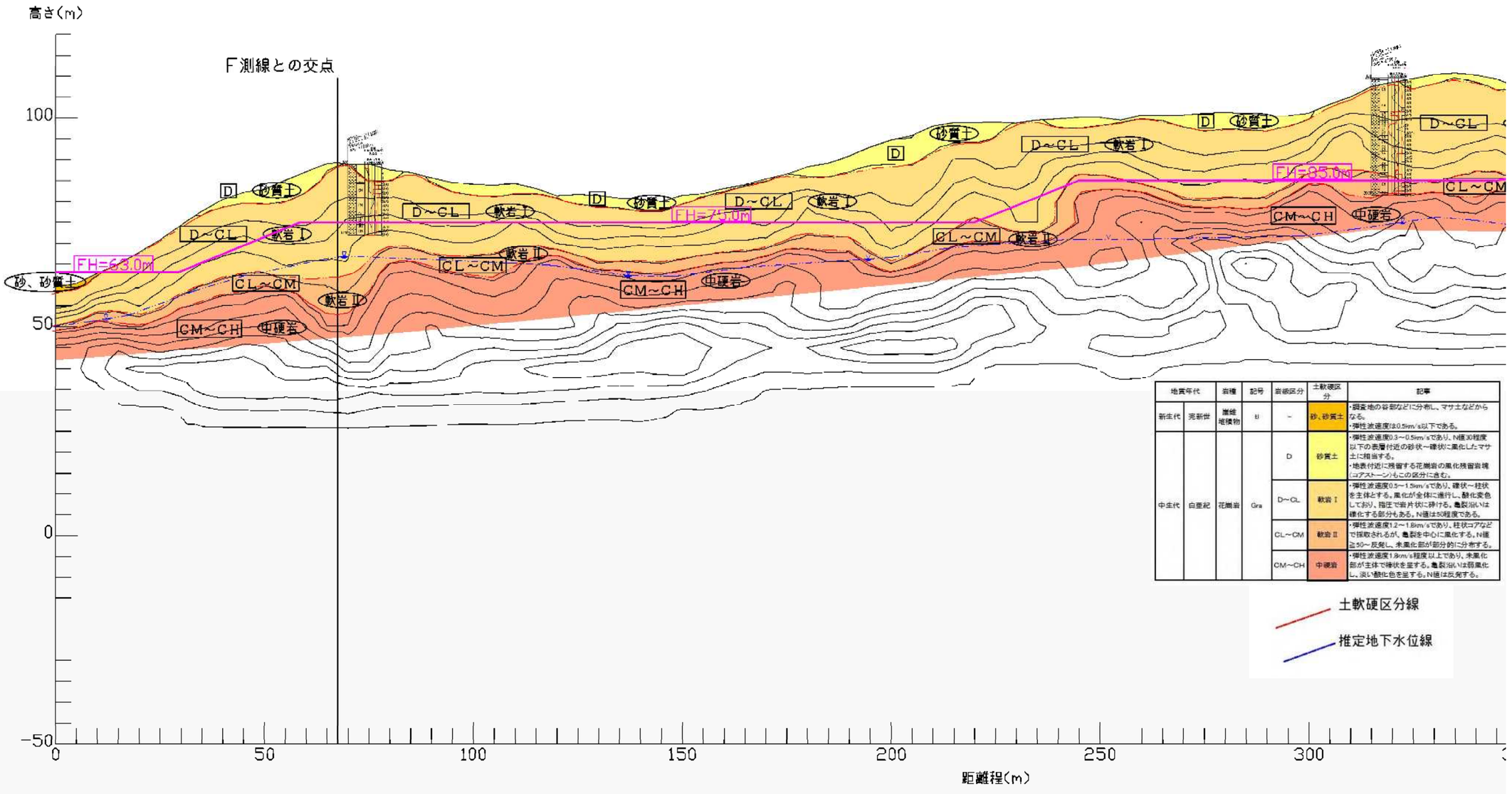

高さ(m)
100
50
0
-50
0
50
100
150
200
250
300
350
距離程(m)
保全緑地
FH=63.0m
D
砂質土
D~CL
軟岩Ⅰ
CL~CM
軟岩Ⅱ
CM~CH
中硬岩
C測線との交点
土軟硬区分線
推定地下水位線
地質年代
岩種
記号
岩級区分
土軟硬区分
記事
新生代
完新世
崖錐堆積物
tl
－
砂、砂質土
・調査地の谷部などに分布し、マサ土などからなる。
・弾性波速度は0.5km/s以下である。
中生代
白亜紀
花崗岩
Gra
D
砂質土
・弾性波速度0.3～0.5km/sであり、N値30程度以下の表層付近の砂状～礫状に風化したマサ土に相当する。
・地表付近に残留する花崗岩の風化残留岩塊（コアストーン）もこの区分に含む。
D~CL
軟岩Ⅰ
・弾性波速度0.5～1.5km/sであり、礫状～柱状を主体とする。風化が全体に進行し、酸化変色しており、指圧で岩片状に砕ける。亀裂沿いは硬化する部分もある。N値は50程度である。
CL~CM
軟岩Ⅱ
・弾性波速度1.2～1.8km/sであり、柱状コアなどで採取されるが、亀裂を中心に風化する。N値≧50～反発し、未風化部が部分的に分布する。
CM~CH
中硬岩
・弾性波速度1.8km/s程度以上であり、未風化部が主体で礫状を呈する。亀裂沿いは弱風化し、淡い酸化色を呈する。N値は反発する。

土軟硬断面図（D測線-2）



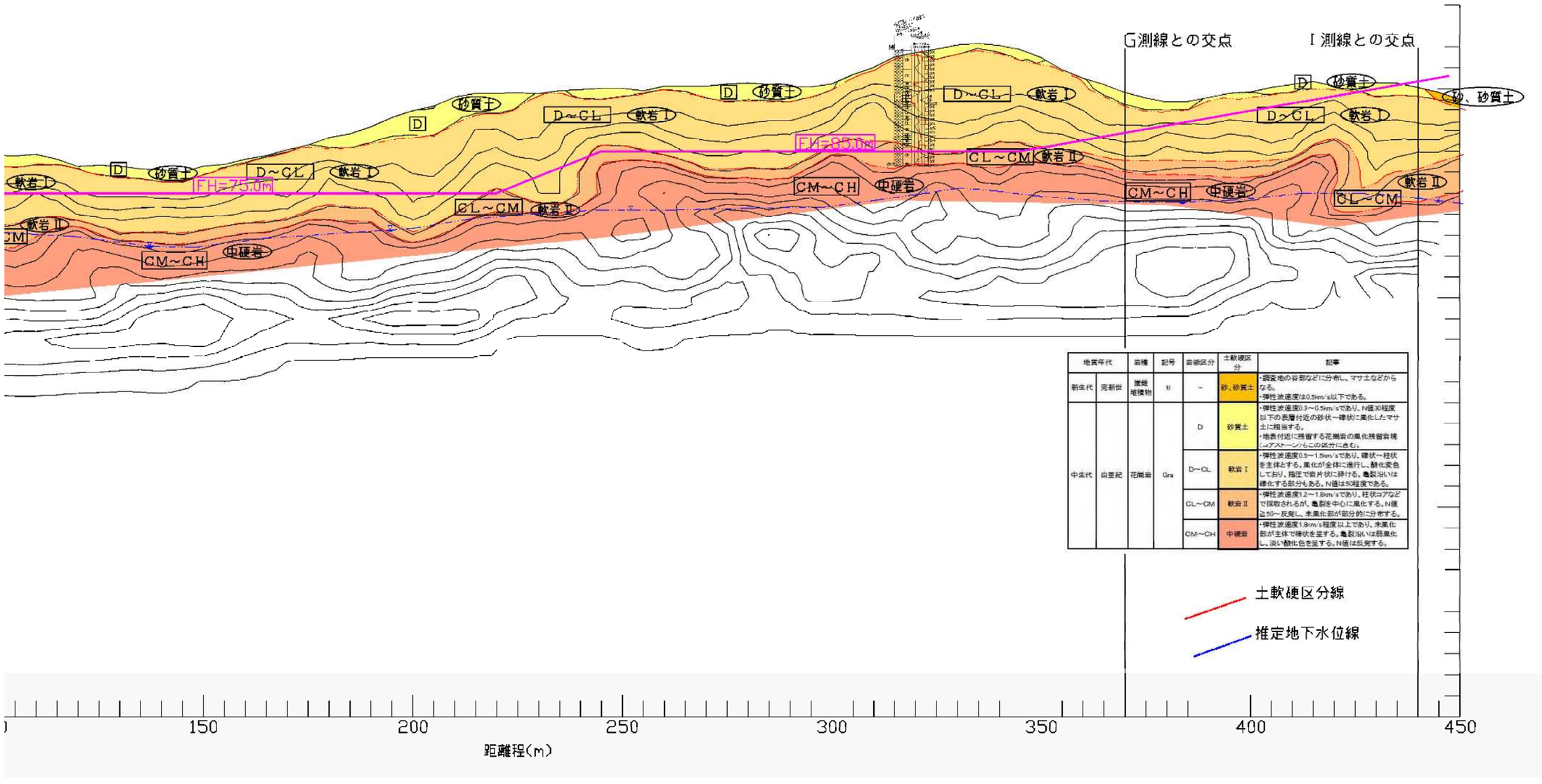
地質年代		岩種	記号	岩級区分	土軟硬区分	記事
新生代	完新世	崖錐堆積物	tl	－	砂、砂質土	・調査地の谷部などに分布し、マサ土などからなる。 ・弾性波速度は0.5km/s以下である。
中生代	白亜紀	花崗岩	Gra	D	砂質土	・弾性波速度0.3～0.5km/sであり、N値30程度以下の表層付近の砂状～礫状に風化したマサ土に相当する。 ・地表付近に残留する花崗岩の風化残留岩塊（コアストーン）もこの区分に含む。
				D～CL	軟岩Ⅰ	・弾性波速度0.5～1.5km/sであり、礫状～柱状を主体とする。風化が全体に進行し、酸化変色しており、指圧で岩片状に砕ける。亀裂沿いは硬化する部分もある。N値は50程度である。
				CL～CM	軟岩Ⅱ	・弾性波速度1.2～1.8km/sであり、柱状コアなどで採取されるが、亀裂を中心に風化する。N値≧50～反発し、未風化部が部分的に分布する。
				CM～CH	中硬岩	・弾性波速度1.8km/s程度以上であり、未風化部が主体で柱状を呈する。亀裂沿いは弱風化し、淡い酸化色を呈する。N値は反発する。

土軟硬断面図（E測線-1）



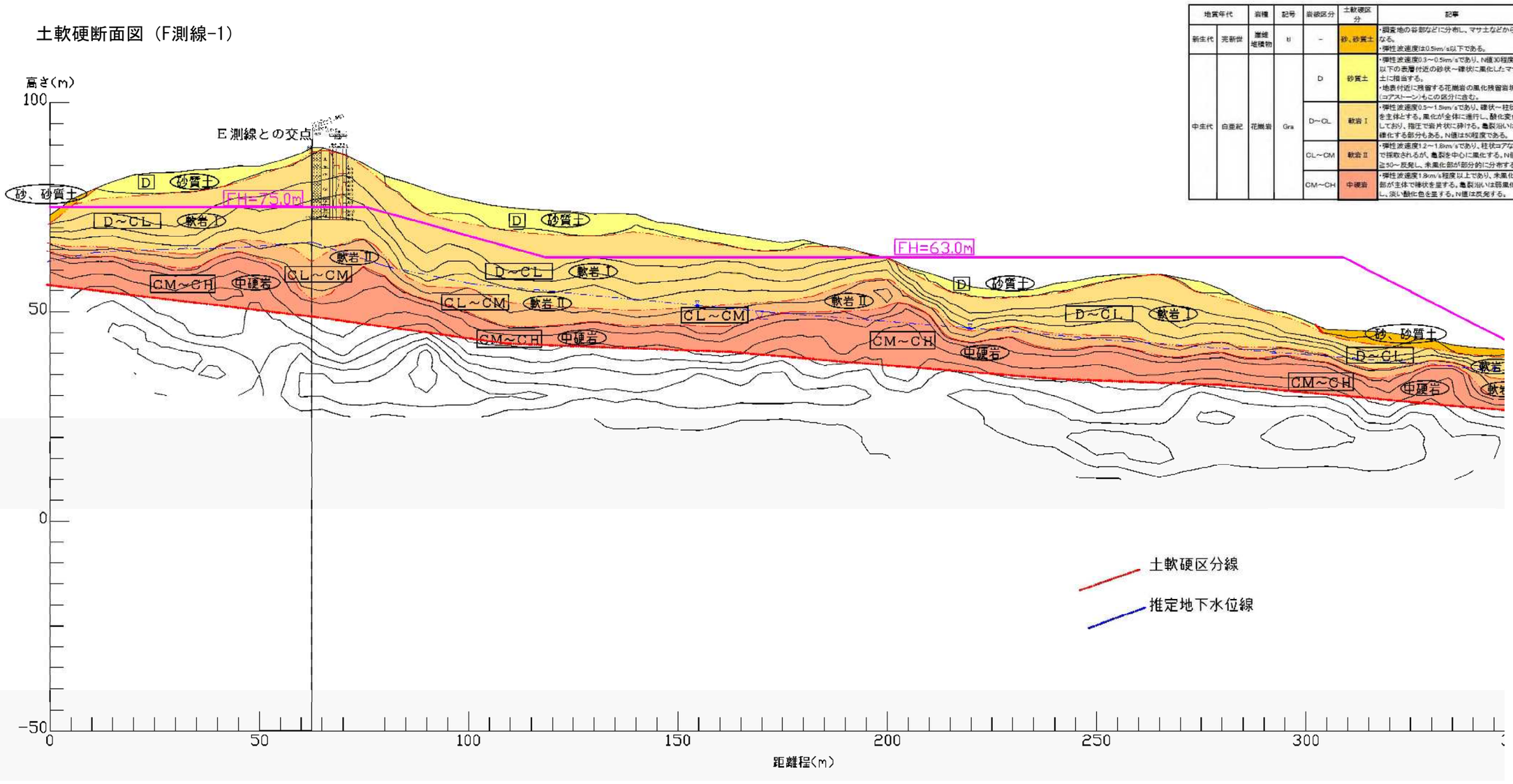
地質年代		岩種	記号	岩級区分	土軟硬区分	記事
新生代	完新世	崖錐堆積物	tl	−	砂、砂質土	・調査地の谷部などに分布し、マサ土などからなる。 ・弾性波速度は0.5km/s以下である。
中生代	白亜紀	花崗岩	Gra	D	砂質土	・弾性波速度0.3～0.5km/sであり、N値30程度以下の表層付近の砂状～礫状に風化したマサ土に相当する。 ・地表付近に残留する花崗岩の風化残留岩塊（コアストーン）もこの区分に含む。
				D~CL	軟岩Ⅰ	・弾性波速度0.5～1.5km/sであり、礫状～柱状を主体とする。風化が全体に進行し、酸化変色しており、指圧で岩片状に砕ける。亀裂沿いは硬化する部分もある。N値は50程度である。
				CL~CM	軟岩Ⅱ	・弾性波速度1.2～1.8km/sであり、柱状コアなどで採取されるが、亀裂を中心に風化する。N値≧50～反発し、未風化部が部分的に分布する。
				CM~CH	中硬岩	・弾性波速度1.8km/s程度以上であり、未風化部が主体で柱状を呈する。亀裂沿いは弱風化し、淡い酸化色を呈する。N値は反発する。

土軟硬断面図（E測線-2）



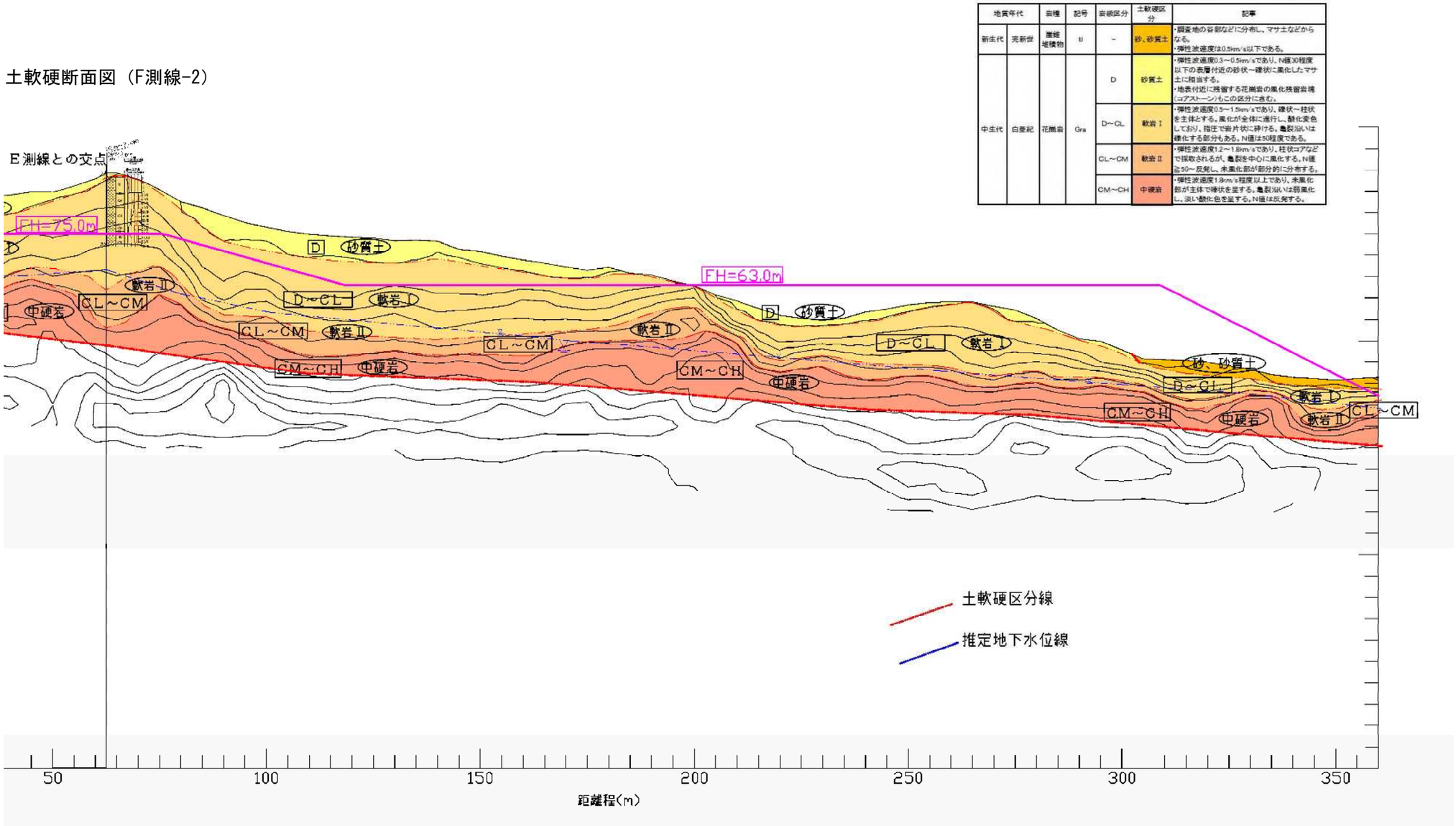
地質年代		岩種	記号	岩級区分	土軟硬区分	記事
新生代	完新世	崖錐堆積物	B	-	砂、砂質土	・調査地の谷部などに分布し、マサ土などからなる。 ・弾性波速度は0.5km/s以下である。
中生代	白亜紀	花崗岩	Gra	D	砂質土	・弾性波速度0.3～0.5km/sであり、N値30程度以下の表層付近の砂状～礫状に風化したマサ土に相当する。 ・地表付近に残留する花崗岩の風化残留岩塊（オアスーンもこの区分に含む。
				D~CL	軟岩 I	・弾性波速度0.3～1.5km/sであり、礫状～柱状を主体とする。風化が全体に進行し、酸化変色しており、指圧で岩片状に砕ける。亀裂沿いは硬化する部分もある。N値は50程度である。
				CL~CM	軟岩 II	・弾性波速度1.2～1.8km/sであり、柱状コアなどで採取されるが、亀裂を中心に風化する。N値≧50～反発し、未風化部が部分的に分布する。
				CM~CH	中硬岩	・弾性波速度1.8km/s程度以上であり、未風化部が主体で棒状を呈する。亀裂沿いは弱風化し、淡い酸化色を呈する。N値は反発する。

土軟硬断面図（F測線-1）



地質年代		岩種	記号	岩級区分	土軟硬区分	記事
新生代	完新世	崖錐堆積物	tl	−	砂、砂質土	・調査地の谷部などに分布し、マサ土などからなる。 ・弾性波速度は0.5km/s以下である。
中生代	白亜紀	花崗岩	Gra	D	砂質土	・弾性波速度0.3～0.5km/sであり、N値30程度以下の表層付近の砂状～礫状に風化したマサ土に相当する。 ・地表付近に残留する花崗岩の風化残留岩塊（コアストーン）もこの区分に含む。
				D~CL	軟岩Ⅰ	・弾性波速度0.5～1.5km/sであり、礫状～柱状を主体とする。風化が全体に進行し、酸化変色しており、指圧で岩片状に砕ける。亀裂沿いは硬化する部分もある。N値は50程度である。
				CL~CM	軟岩Ⅱ	・弾性波速度1.2～1.8km/sであり、柱状コアなどで採取されるが、亀裂を中心に風化する。N値≧50～反発し、未風化部が部分的に分布する。
				CM~CH	中硬岩	・弾性波速度1.8km/s程度以上であり、未風化部が主体で硬状を呈する。亀裂沿いは弱風化し、淡い酸化色を呈する。N値は反発する。

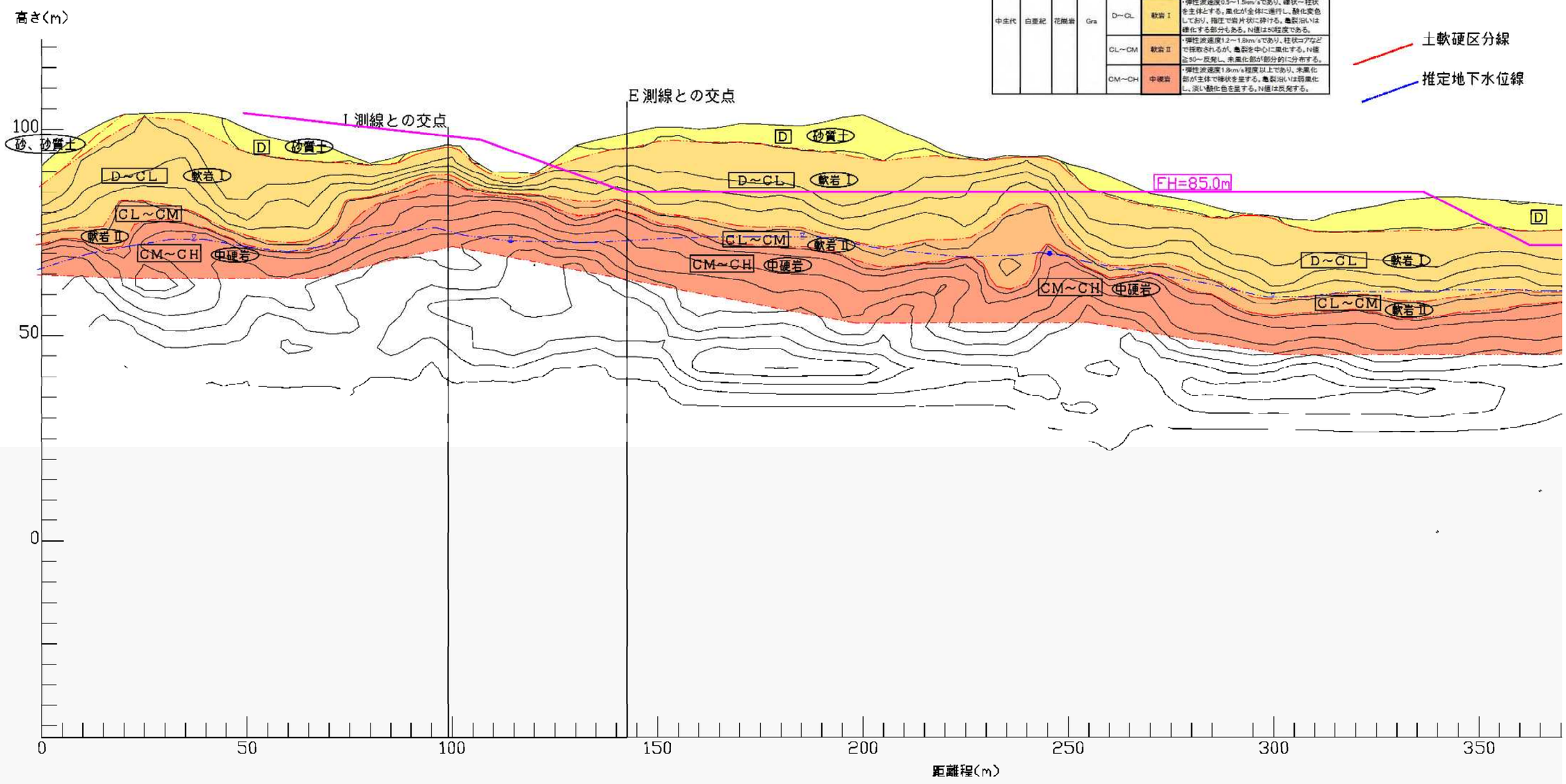
土軟硬断面図（F測線-2）



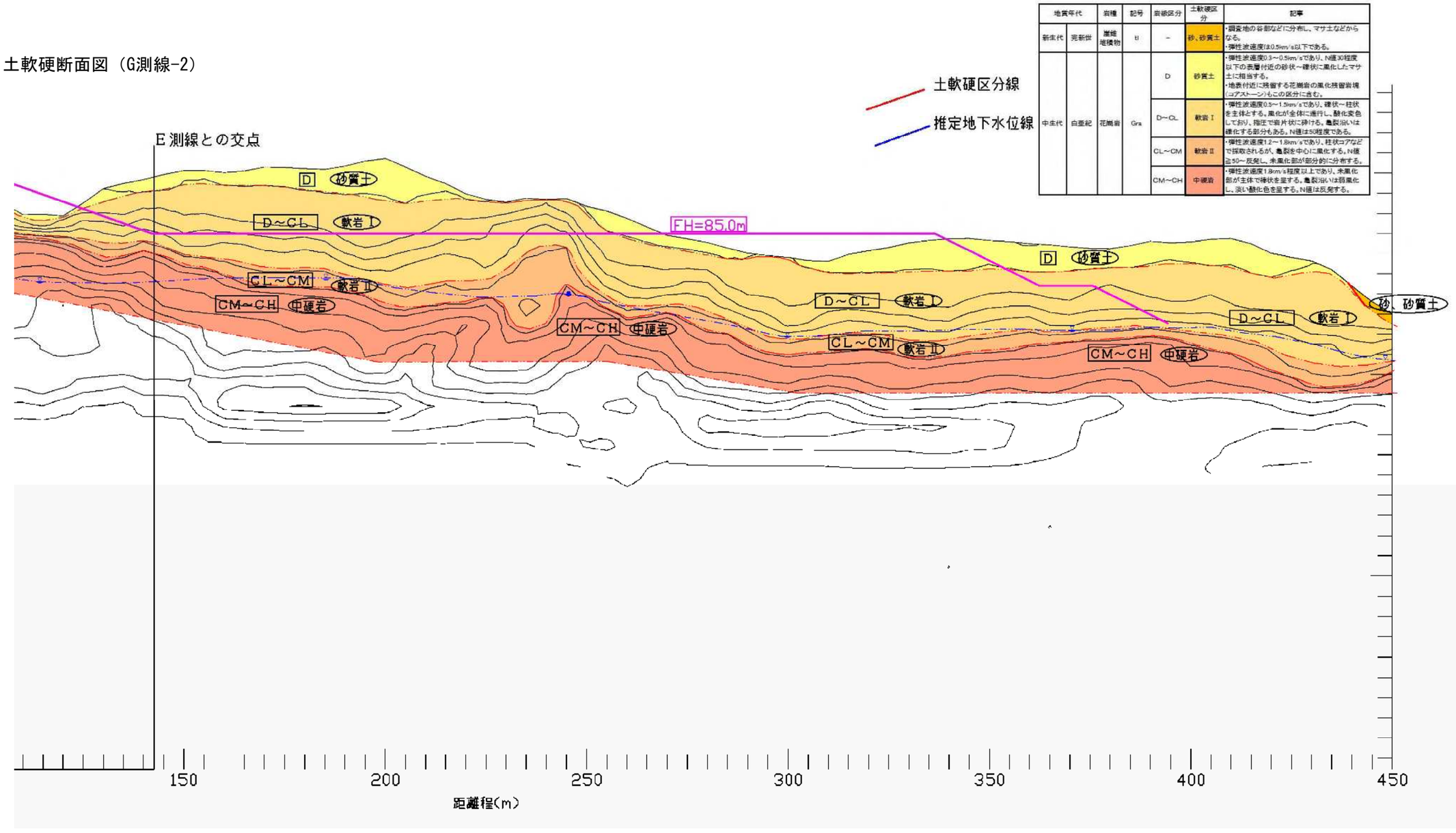
地質年代		岩種	記号	岩級区分	土軟硬区分	記事
新生代	完新世	崖錐堆積物	tl	-	砂、砂質土	・調査地の谷部などに分布し、マサ土などからなる。 ・弾性波速度は0.5km/s以下である。
中生代	白亜紀	花崗岩	Gra	D	砂質土	・弾性波速度0.3～0.5km/sであり、N値30程度以下の表層付近の砂状～礫状に風化したマサ土に相当する。 ・地表付近に残留する花崗岩の風化残留岩塊（コアストーン）もこの区分に含む。
				D～CL	軟岩Ⅰ	・弾性波速度0.5～1.5km/sであり、礫状～柱状を主体とする。風化が全体に進行し、酸化変色しており、指圧で岩片状に砕ける。亀裂沿いは硬化する部分もある。N値は50程度である。
				CL～CM	軟岩Ⅱ	・弾性波速度1.2～1.8km/sであり、柱状コアなどで採取されるが、亀裂を中心に風化する。N値≧50～反発し、未風化部が部分的に分布する。
				CM～CH	中硬岩	・弾性波速度1.8km/s程度以上であり、未風化部が主体で柱状を呈する。亀裂沿いは弱風化し、淡い酸化色を呈する。N値は反発する。

土軟硬断面図（G測線-1）

地質年代		岩種	記号	岩級区分	土軟硬区分	記事
新生代	完新世	崖錐堆積物	U	-	砂、砂質土	・調査地の谷部などに分布し、マサ土などからなる。 ・弾性波速度は0.5km/s以下である。
中生代	白亜紀	花崗岩	Gra	D	砂質土	・弾性波速度0.3～0.5km/sであり、N値30程度以下の表層付近の砂状～礫状に風化したマサ土に相当する。 ・地表付近に残留する花崗岩の風化残留岩塊（コアストーン）もこの区分に含む。
				D～CL	軟岩Ⅰ	・弾性波速度0.5～1.5km/sであり、礫状～柱状を主体とする。風化が全体に進行し、酸化変色しており、指圧で岩片状に砕ける。亀裂沿いは礫化する部分もある。N値は50程度である。
				CL～CM	軟岩Ⅱ	・弾性波速度1.2～1.8km/sであり、柱状コアなどで採取されるが、亀裂を中心に風化する。N値≧50～反発し、未風化部が部分的に分布する。
				CM～CH	中硬岩	・弾性波速度1.8km/s程度以上であり、未風化部が主体で柱状を呈する。亀裂沿いは弱風化し、淡い酸化色を呈する。N値は反発する。



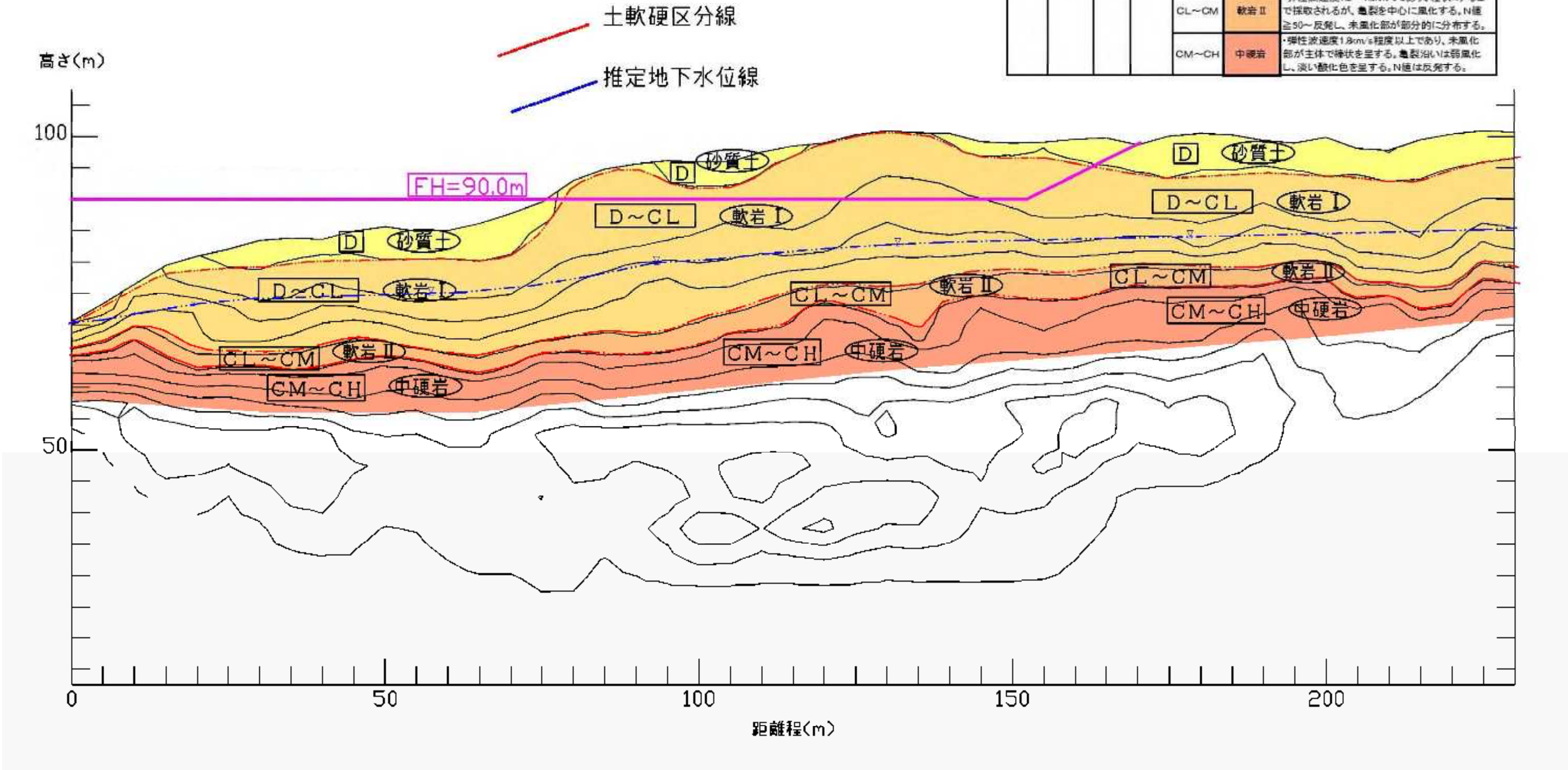
土軟硬断面図（G測線-2）



地質年代		岩種	記号	岩級区分	土軟硬区分	記事
新生代	完新世	崖錐堆積物	D	－	砂、砂質土	・調査地の谷部などに分布し、マサ土などからなる。 ・弾性波速度は0.5km/s以下である。
中生代	白亜紀	花崗岩	Gra	D	砂質土	・弾性波速度0.3～0.5km/sであり、N値30程度以下の表層付近の砂状～礫状に風化したマサ土に相当する。 ・地表付近に残留する花崗岩の風化残留岩塊（コアストーン）もこの区分に含む。
				D～CL	軟岩Ⅰ	・弾性波速度0.5～1.5km/sであり、礫状～柱状を主体とする。風化が全体に進行し、酸化変色しており、指圧で岩片状に砕ける。亀裂沿いは礫化する部分もある。N値は50程度である。
				CL～CM	軟岩Ⅱ	・弾性波速度1.2～1.8km/sであり、柱状コアなどで採取されるが、亀裂を中心に風化する。N値≧50～反発し、未風化部が部分的に分布する。
				CM～CH	中硬岩	・弾性波速度1.8km/s程度以上であり、未風化部が主体で棒状を呈する。亀裂沿いは弱風化し、淡い酸化色を呈する。N値は反発する。

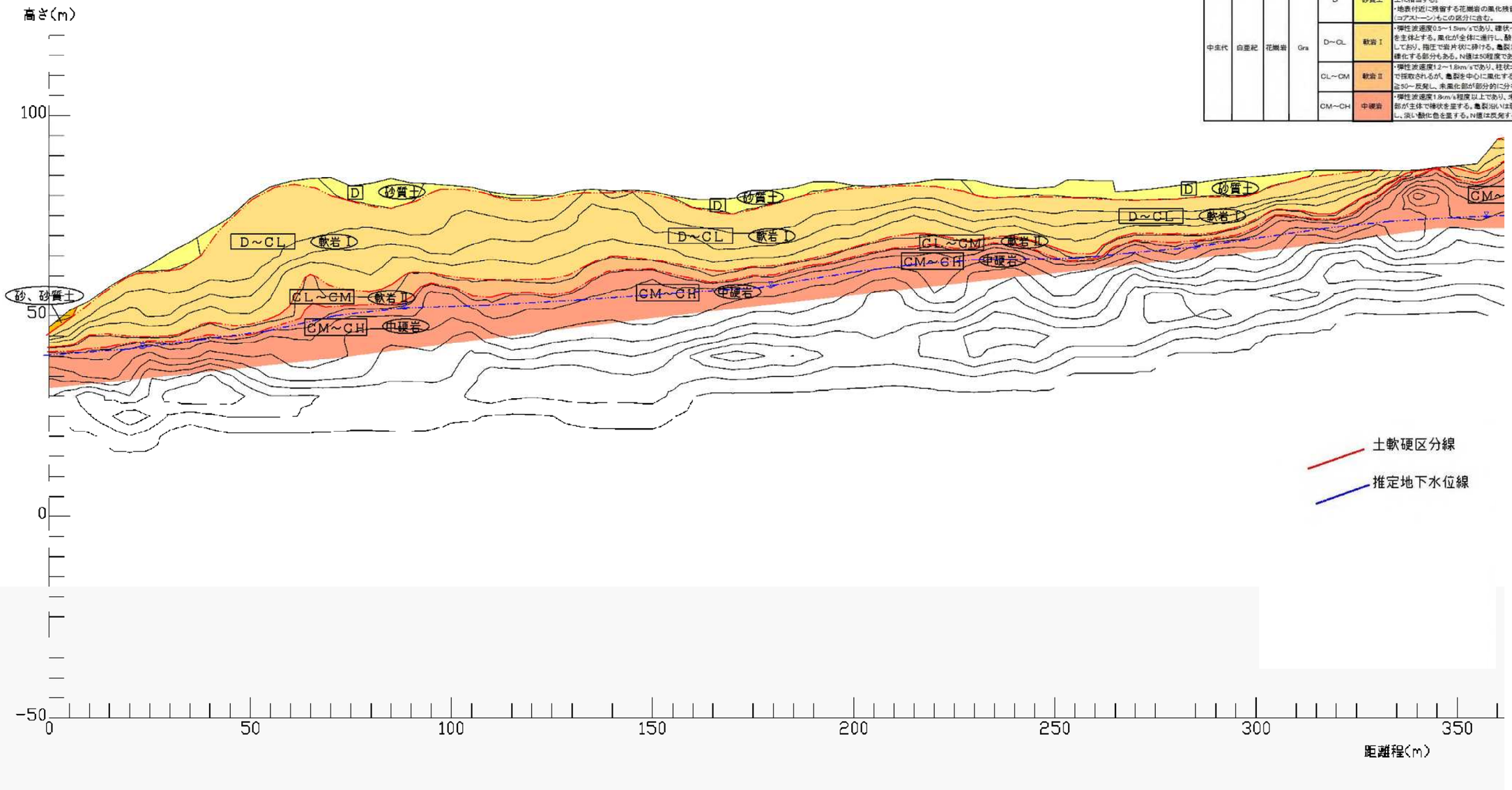
土軟硬断面図（H測線）

地質年代		岩種	記号	岩級区分	土軟硬区分	記事
新生代	完新世	崖錐堆積物	dt	－	砂、砂質土	・調査地の谷部などに分布し、マサ土などからなる。 ・弾性波速度は0.5km/s以下である。
中生代	白亜紀	花崗岩	Gra	D	砂質土	・弾性波速度0.3～0.5km/sであり、N値30程度以下の表層付近の砂状～礫状に風化したマサ土に相当する。 ・地表付近に残留する花崗岩の風化残留岩塊(コアストーン)もこの区分に含む。
				D～CL	軟岩Ⅰ	・弾性波速度0.5～1.5km/sであり、礫状～柱状を主体とする。風化が全体に進行し、酸化変色しており、指圧で岩片状に砕ける。亀裂沿いは礫化する部分もある。N値は50程度である。
				CL～CM	軟岩Ⅱ	・弾性波速度1.2～1.8km/sであり、柱状コアなどで採取されるが、亀裂を中心に風化する。N値≧50～反発し、未風化部が部分的に分布する。
				CM～CH	中硬岩	・弾性波速度1.8km/s程度以上であり、未風化部が主体で棒状を呈する。亀裂沿いは弱風化し、淡い酸化色を呈する。N値は反発する。

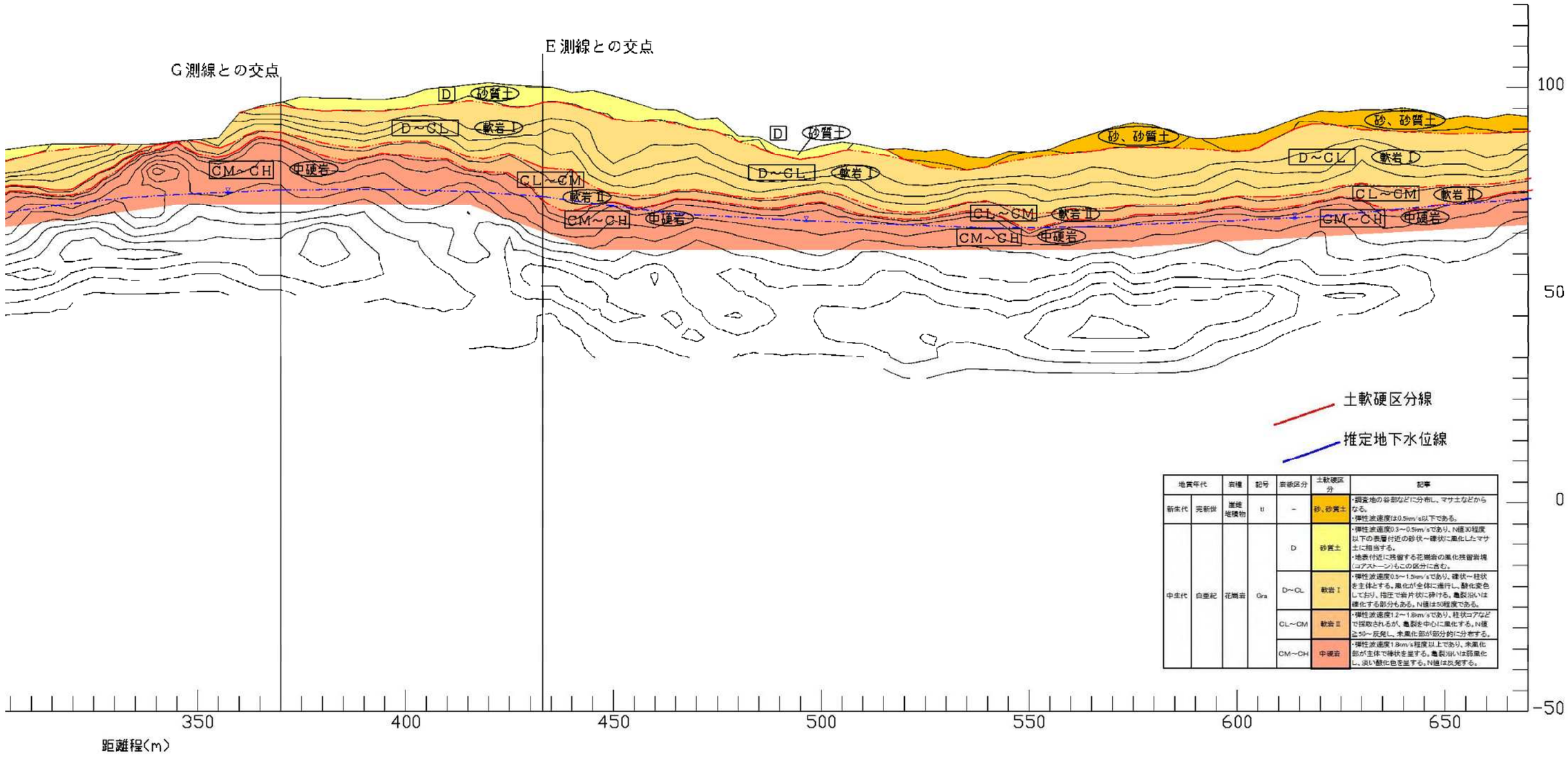


土軟硬断面図（I測線-1）

地質年代		岩種	記号	岩級区分	土軟硬区分	記事
新生代	完新世	崖錐堆積物	tl	－	砂、砂質土	・斜面地の谷部などに分布し、マサ土などからなる。 ・弾性波速度は0.5km/s以下である。
中生代	白亜紀	花崗岩	Gra	D	砂質土	・弾性波速度0.3～0.5km/sであり、N値30程度以下の表層付近の砂状～礫状に風化したマサ土に相当する。 ・地表付近に残留する花崗岩の風化残留岩塊（コアストーン）もこの区分に含む。
				D～CL	軟岩Ⅰ	・弾性波速度0.5～1.5km/sであり、礫状～柱状を主体とする。風化が全体に進行し、酸化変色しており、指圧で岩片状に砕ける。亀裂沿いは硬化する部分もある。N値は50程度である。
				CL～CM	軟岩Ⅱ	・弾性波速度1.2～1.8km/sであり、柱状コアなどで採取されるが、亀裂を中心に風化する。N値≧50～反発し、未風化部が部分的に分布する。
				CM～CH	中硬岩	・弾性波速度1.8km/s程度以上であり、未風化部が主体で礫状を呈する。亀裂沿いは弱風化し、淡い酸化色を呈する。N値は反発する。

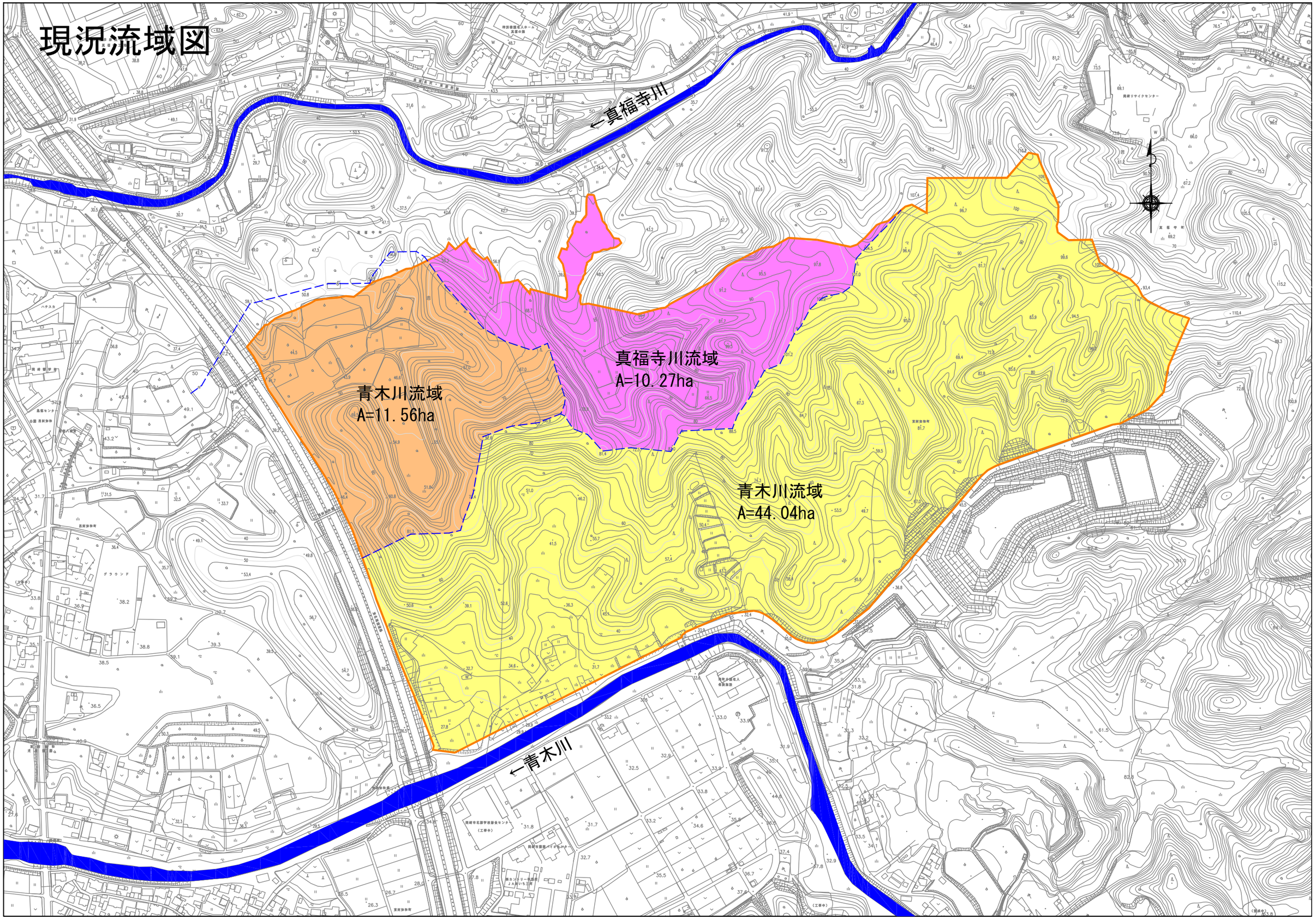


土軟硬断面図（I測線-2）

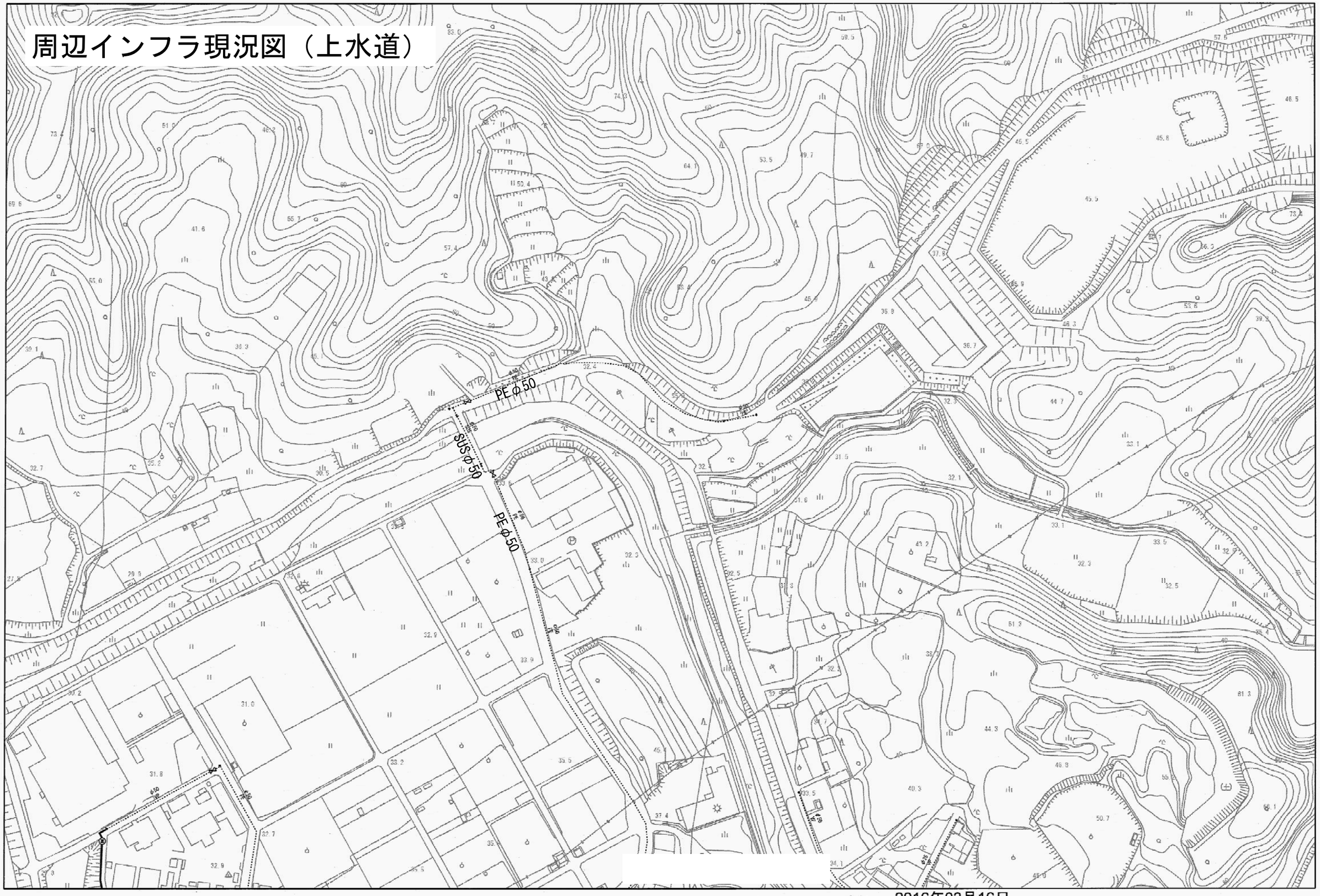


地質年代		岩種	記号	岩級区分	土軟硬区分	記事
新生代	完新世	崖錐堆積物	tl	–	砂、砂質土	・調査地の谷部などに分布し、マサ土などからなる。 ・弾性波速度は0.5km/s以下である。
中生代	白亜紀	花崗岩	Gra	D	砂質土	・弾性波速度0.3～0.5km/sであり、N値30程度以下の表層付近の砂状～礫状に風化したマサ土に相当する。 ・地表付近に残留する花崗岩の風化残留岩塊（コアストーン）もこの区分に含む。
				D～CL	軟岩Ⅰ	・弾性波速度0.5～1.5km/sであり、礫状～柱状を主体とする。風化が全体に進行し、酸化変色しており、指圧で岩片状に砕ける。亀裂沿いは硬化する部分もある。N値は50程度である。
				CL～CM	軟岩Ⅱ	・弾性波速度1.2～1.8km/sであり、柱状コアなどで採取されるが、亀裂を中心に風化する。N値≧50～反発し、未風化部が部分的に分布する。
				CM～CH	中硬岩	・弾性波速度1.8km/s程度以上であり、未風化部が主体で棒状を呈する。亀裂沿いは弱風化し、淡い酸化色を呈する。N値は反発する。

現況流域図



周辺インフラ現況図（上水道）

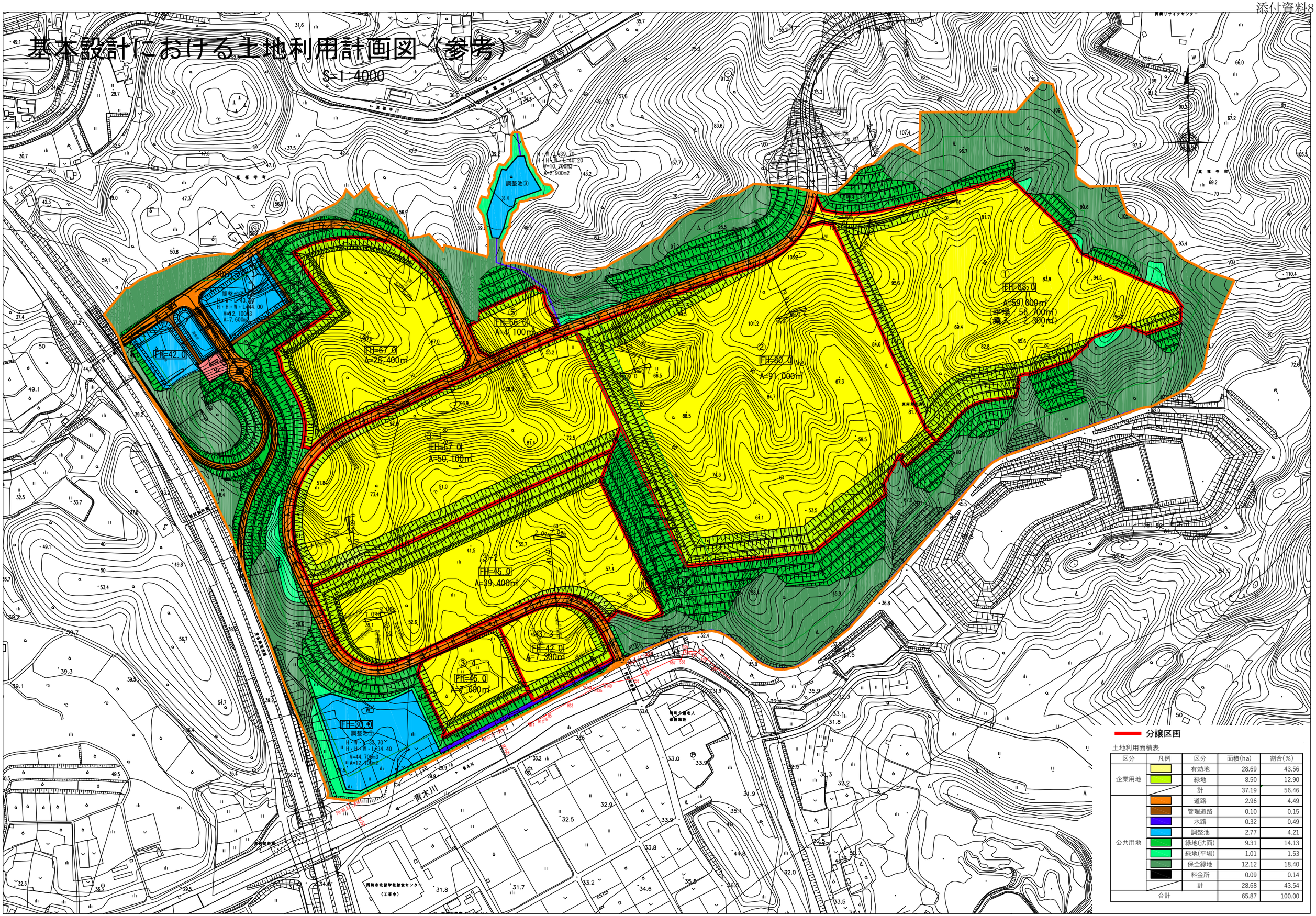


2,500分の1

交付日　2016年03月16日
この図面は配管図のコピーです。記載内容については現地で確認してください。

基本設計における土地利用計画図（参考）

S=1:4000



土地利用面積表

区分	凡例	区分	面積(ha)	割合(%)
企業用地		有効地	28.69	43.56
		緑地	8.50	12.90
		計	37.19	56.46
公共用地		道路	2.96	4.49
		管理道路	0.10	0.15
		水路	0.32	0.49
		調整池	2.77	4.21
		緑地(法面)	9.31	14.13
		緑地(平場)	1.01	1.53
		保全緑地	12.12	18.40
		料金所	0.09	0.14
		計	28.68	43.54
合計			65.87	100.00